



茨城県景気ウォッチャー調査

(平成18年12月調査分)

景気の現状判断DI

	平成18年9月	平成18年12月	前回調査比
茨城県	52.0	51.7	0.3
県北地域	49.1	52.2	+3.1
県央地域	56.0	50.4	5.6
鹿行地域	53.1	53.6	+0.5
県南地域	52.6	51.3	1.4
県西地域	49.1	50.9	+1.8

景気の先行き判断DI

	平成18年9月	平成18年12月	前回調査比
茨城県	53.7	48.3	5.4
県北地域	54.4	48.2	6.2
県央地域	53.0	50.9	2.1
鹿行地域	49.6	47.8	1.8
県南地域	60.1	47.5	12.6
県西地域	51.3	47.3	4.0

平成18年12月

茨城県企画部統計課

問い合わせ先
統計課企画分析グループ TEL:029-301-2642
ホームページアドレス
<http://www.pref.ibaraki.jp/tokei/betu/bukka/watch/index.htm>

目 次

調査の概要	1
調査結果の概要	3
1 全県の動向	3
（1）景気の現状判断D I	3
（2）景気の先行き判断D I	4
2 地域別の動向	5
（1）景気の現状判断D I	5
（2）景気の先行き判断D I	7
3 回答率	10
景気の判断理由	11
1 景気の現状判断理由	11
2 景気の先行き判断理由	21
3 その他の意見	31

調査の概要

1 調査の目的

経済の第一線で働いている人々から、景気の現状や景気の先行き判断に関する生の情報を地域ごとに把握するとともに迅速に公表することで、県や市町村のきめ細かな施策立案や経済界におけるタイムリーな景気判断の基礎資料とする。

2 調査の範囲

(1)対象地域

県下全域を対象とする。また、全域を県北、県央、鹿行、県南及び県西の5地域に区分する。なお、各地域に含まれる市及び郡は以下のとおりである。

平成18年11月30日現在

地域	市及び郡
県北地域	日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、ひたちなか市、常陸大宮市、那珂市、那珂郡、久慈郡
県央地域	水戸市、笠間市、小美玉市、東茨城郡
鹿行地域	鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、鉾田市
県南地域	土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、稲敷郡、北相馬郡
県西地域	古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、結城郡、猿島郡

(2)調査客体

家計動向、企業動向及び雇用動向を敏感に反映する業種に従事する者から、(1)で示した地域ごとに60名、計300名を調査客体とする。

【地域別・業種別調査客体数】

業種名	具	例	県北地域	県央地域	鹿行地域	県南地域	県西地域	合計
家計関連	小売業、飲食業、サービス業、住宅関連等		38	39	38	37	36	188
企業関連	製造業(食料品、一般機械器具等)、建設業、金融業		17	16	17	18	19	87
雇用関連	人材派遣業、公共職業安定所、求人広告業等		5	5	5	5	5	25
	計		60	60	60	60	60	300

3 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断(方向性)
- (2) (1)の理由
- (3) 景気の先行きに対する判断(方向性)
- (4) (3)の理由
- (5) その他景気に関する意見(自由回答)

4 調査月及び調査期間

調査月は3月、6月、9月及び12月の年4回である。平成18年12月調査の調査期間は平成18年12月1日から12月25日である。

5 利用上の注意

- (1) 景気動向指数(DI)は景気の方角性を判断するものであり、景気の水準を判断するものではない。
- (2) ウォッチャーの回答構成比は、小数第1位までの表示とし、表示単位未満の端数は四捨五入した。したがって、構成比の合計は100%とならない場合がある。

景気動向指数(DI)について

- 1 景気の現状及び景気の先行きに対する判断の回答区分は、以下のとおり5段階としているが、それぞれに点数化し、これらを各回答区分の構成比(%)に乗じて、景気動向指数(DI)を算出している。

回答区分	良くなって いる	やや良くな っている	変わらない	やや悪くな っている	悪くなって いる
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

2 具体例

回答者数100名で、回答内訳が以下の場合。

良くなって いる	やや良くな っている	変わらない	やや悪くな っている	悪くなって いる
15名	27名	25名	11名	22名

それぞれの回答構成比は

良くなって いる	やや良くな っている	変わらない	やや悪くな っている	悪くなって いる
15.0%	27.0%	25.0%	11.0%	22.0%

したがって、DI値は、

$$(1 \times 15.0) + (0.75 \times 27.0) + (0.5 \times 25.0) + (0.25 \times 11.0) + (0 \times 22.0) = 50.5 \text{ となる。}$$

この値は、全員が「変わらない」と回答した場合は、 $(0.5 \times 100) = 50$ となることから、50を上回っているときは、景気の上昇局面にあり、また50を下回っているときは、景気の下降局面にあるといえる。

調査結果の概要

1 全県の動向

(1) 景気の現状判断DI

3か月前と比較した景気の現状判断DIは51.7となった。「やや良くなっている」の回答構成比が減少し、「悪くなっている」の回答構成比が増加したため、9月調査分より0.3ポイント低下したものの、横這いを表す50を5期連続で上回った。業種別にみると、雇用関連DIは9月調査分を上回ったものの、家計動向関連DI及び企業動向関連DIは9月調査分を下回った。

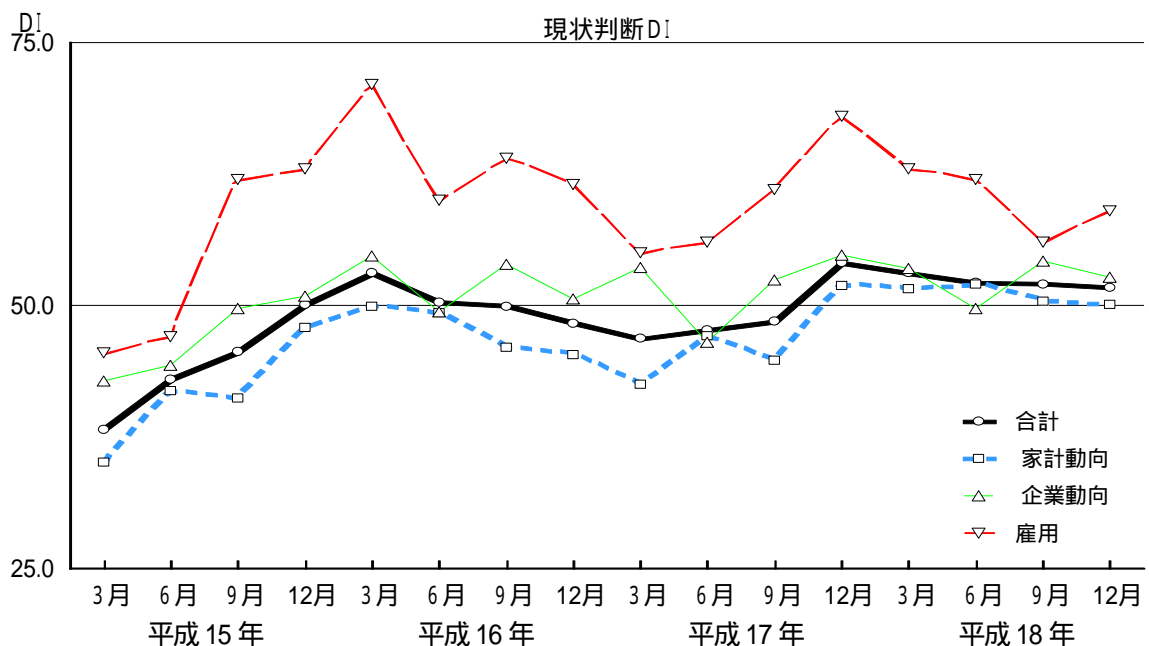
表1 - 1 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成17年	平成18年	平成18年	平成18年	平成18年
		12月	3月	6月	9月	12月
合計		54.1	53.1	52.2	52.0	51.7
家計動向関連		51.9	51.6	52.0	50.4	50.1
小売関連		50.7	53.3	52.4	53.2	47.1
飲食関連		53.6	61.3	53.6	46.3	56.9
サービス関連		51.5	46.3	50.6	48.7	51.9
住宅関連		61.1	63.9	58.3	52.8	44.4
企業動向関連		54.8	53.5	49.7	54.2	52.7
農林水産業		50.0	43.8	43.8	46.9	53.1
製造業		53.2	51.0	49.0	52.3	52.8
非製造業		58.6	60.0	52.6	58.6	52.5
雇用関連		68.0	63.0	62.0	56.0	59.0

表1 - 2 回答構成比

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
平成17年12月	4.5%	29.6%	47.1%	15.8%	3.1%
平成18年3月	2.8%	29.5%	48.6%	15.6%	3.5%
平成18年6月	3.1%	22.7%	56.9%	14.6%	2.7%
平成18年9月	2.8%	28.1%	47.0%	18.6%	3.5%
平成18年12月	3.2%	26.5%	48.4%	17.7%	4.2%

図1 - 1 景気の現状判断DIの推移



(2) 景気の先行き判断DI

3か月先の景気の先行き判断DIは48.3となった。「良くなっている」「やや良くなっている」の回答構成比が減少し、「悪くなっている」「やや悪くなっている」の回答構成比が増加したため、9月調査分より5.4ポイント低下し、横這いを表す50を6期ぶりに下回った。業種別にみると、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが9月調査分を下回った。

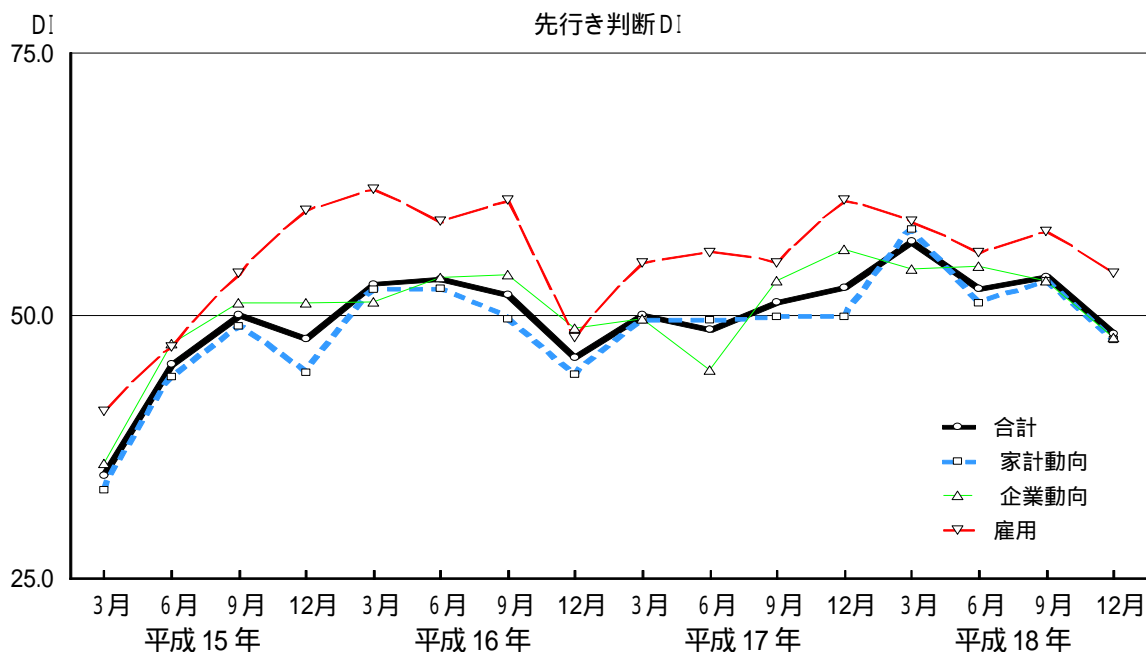
表1 - 3 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成17年	平成18年	平成18年	平成18年	平成18年
		12月	3月	6月	9月	12月
合計		52.7	57.1	52.6	53.7	48.3
家計動向関連		49.9	58.2	51.2	53.3	47.7
小売関連		52.8	58.8	52.1	51.4	48.2
飲食関連		42.9	68.8	50.0	63.8	47.2
サービス関連		48.1	54.7	49.7	52.3	47.8
住宅関連		58.3	61.1	61.1	52.8	44.4
企業動向関連		56.3	54.4	54.7	53.3	47.9
農林水産業		50.0	53.1	53.1	59.4	53.1
製造業		53.7	52.1	53.6	54.0	46.6
非製造業		62.1	58.3	56.9	50.8	48.3
雇用関連		61.0	59.0	56.0	58.0	54.0

表1 - 4 回答構成比

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
平成17年12月	3.8%	26.8%	48.8%	17.5%	3.1%
平成18年3月	4.2%	34.0%	50.0%	9.7%	2.1%
平成18年6月	1.7%	26.1%	55.3%	14.9%	2.0%
平成18年9月	3.9%	26.7%	51.6%	16.1%	1.8%
平成18年12月	1.8%	14.8%	60.8%	20.1%	2.5%

図1 - 2 景気の先行き判断DIの推移



2 地域別の動向

(1) 景気の現状判断DI

県北地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは52.2となった。9月調査分より3.1ポイント上昇し、横這いを表す50を4期ぶりに上回った。業種別にみると、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが9月調査分を上回った。

表2 - 1 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成17年	平成18年	平成18年	平成18年	平成18年
		12月	3月	6月	9月	12月
合計		52.2	46.6	49.2	49.1	52.2
家計動向関連		51.4	43.8	47.4	45.0	47.8
企業動向関連		51.5	48.5	51.5	57.4	58.8
雇用関連		60.0	60.0	55.0	50.0	60.0

表2 - 2 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成17年12月	5.2%	29.3%	37.9%	24.1%	3.4%
平成18年3月	0.0%	24.1%	43.1%	27.6%	5.2%
平成18年6月	0.0%	21.7%	58.3%	15.0%	5.0%
平成18年9月	5.3%	21.1%	43.9%	24.6%	5.3%
平成18年12月	0.0%	33.9%	46.4%	14.3%	5.4%

県央地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは50.4となった。9月調査分より5.6ポイント低下したものの、横這いを表す50を5期連続で上回った。また、現状判断DIは全県を通じて最低であった。業種別にみると、雇用関連DIは9月調査分を上回ったものの、家計動向関連DI及び企業動向関連DIは9月調査分を下回った。

表2 - 3 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成17年	平成18年	平成18年	平成18年	平成18年
		12月	3月	6月	9月	12月
合計		50.9	54.5	52.2	56.0	50.4
家計動向関連		48.0	52.2	51.4	56.8	50.7
企業動向関連		54.7	57.8	48.3	54.7	46.4
雇用関連		60.0	60.0	70.0	55.0	60.0

表2 - 4 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成17年12月	3.4%	22.4%	53.4%	15.5%	5.2%
平成18年3月	3.6%	29.1%	52.7%	10.9%	3.6%
平成18年6月	5.3%	19.3%	57.9%	14.0%	3.5%
平成18年9月	5.2%	29.3%	53.4%	8.6%	3.4%
平成18年12月	3.6%	17.9%	60.7%	12.5%	5.4%

鹿行地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは53.6となった。9月調査分より0.5ポイント上昇し、横這いを表す50を5期連続で上回った。また、現状判断DIは全県を通じて最高であった。業種別にみると、家計動向関連DI及び雇用関連DIは9月調査分を上回ったものの、企業動向関連DIは9月調査分を下回った。

表2-5 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成17年	平成18年	平成18年	平成18年	平成18年
		12月	3月	6月	9月	12月
合計		54.3	51.3	55.9	53.1	53.6
家計動向関連		50.7	50.7	56.6	49.3	50.0
企業動向関連		57.8	51.6	51.6	60.9	58.8
雇用関連		70.0	55.0	65.0	55.0	60.0

表2-6 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成17年12月	1.7%	29.3%	55.2%	12.1%	1.7%
平成18年3月	0.0%	28.8%	50.8%	16.9%	3.4%
平成18年6月	3.4%	30.5%	54.2%	10.2%	1.7%
平成18年9月	1.8%	29.8%	49.1%	17.5%	1.8%
平成18年12月	1.8%	33.9%	44.6%	16.1%	3.6%

県南地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは51.3となった。9月調査分より1.3ポイント低下したものの、横這いを表す50を6期連続で上回った。業種別にみると、企業動向関連DI及び雇用関連DIは9月調査分を上回ったものの、家計動向関連DIは9月調査分を下回った。

表2-7 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成17年	平成18年	平成18年	平成18年	平成18年
		12月	3月	6月	9月	12月
合計		60.8	57.6	52.1	52.6	51.3
家計動向関連		60.1	59.0	52.8	54.4	50.7
企業動向関連		60.9	48.6	45.8	48.6	50.0
雇用関連		65.0	80.0	70.0	55.0	60.0

表2-8 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成17年12月	8.6%	37.9%	43.1%	8.6%	1.7%
平成18年3月	8.5%	33.9%	40.7%	13.6%	3.4%
平成18年6月	3.4%	23.7%	54.2%	15.3%	3.4%
平成18年9月	1.8%	35.1%	40.4%	17.5%	5.3%
平成18年12月	6.8%	23.7%	42.4%	22.0%	5.1%

県西地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは50.9となった。9月調査分より1.8ポイント上昇し、横這いを表す50を2期ぶりに上回った。業種別にみると、家計動向関連DIは9月調査分を上回ったものの、企業動向関連DI及び雇用関連DIは9月調査分を下回った。

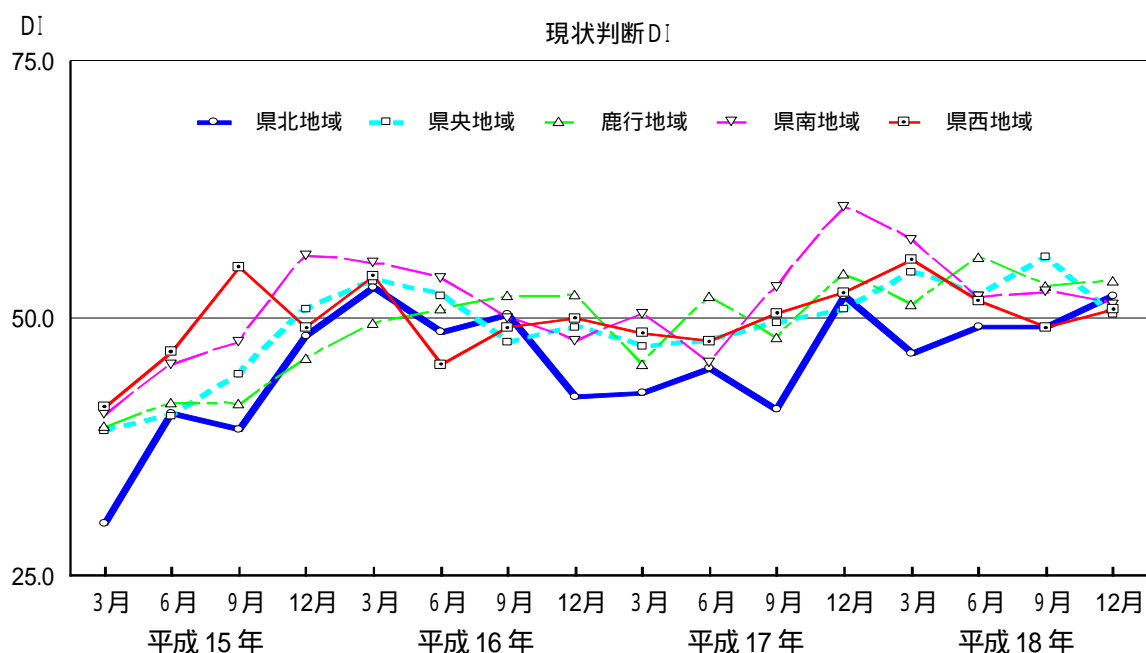
表2 - 9 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成17年	平成18年	平成18年	平成18年	平成18年
		12月	3月	6月	9月	12月
合計		52.5	55.7	51.7	49.1	50.9
家計動向関連		49.3	52.3	52.1	46.3	51.4
企業動向関連		50.0	60.5	51.3	50.0	48.4
雇用関連		85.0	60.0	50.0	65.0	55.0

表2 - 10 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成17年12月	3.4%	28.8%	45.8%	18.6%	3.4%
平成18年3月	1.8%	31.6%	56.1%	8.8%	1.8%
平成18年6月	3.3%	18.3%	60.0%	18.3%	0.0%
平成18年9月	0.0%	25.0%	48.2%	25.0%	1.8%
平成18年12月	3.6%	23.2%	48.2%	23.2%	1.8%

図2 - 1 地域別現状判断DIの推移



(2) 景気の先行き判断DI

県北地域

3か月先の景気の先行き判断DIは48.2となった。9月調査分より6.2ポイント低下し、横這いを表す50を4期ぶりに下回った。業種別にみると、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが9月調査分を下回った。

表2 - 11 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成17年	平成18年	平成18年	平成18年	平成18年
		12月	3月	6月	9月	12月
合計		49.1	51.7	53.8	54.4	48.2
家計動向関連		43.1	51.4	52.0	51.4	44.9
企業動向関連		57.4	54.4	60.3	60.3	54.4
雇用関連		65.0	45.0	45.0	55.0	50.0

表2 - 12 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成17年12月	5.2%	19.0%	46.6%	25.9%	3.4%
平成18年3月	0.0%	34.5%	43.1%	17.2%	5.2%
平成18年6月	1.7%	28.3%	55.0%	13.3%	1.7%
平成18年9月	5.3%	24.6%	54.4%	14.0%	1.8%
平成18年12月	0.0%	14.3%	66.1%	17.9%	1.8%

県央地域

3か月先の景気の先行き判断DIは50.9となった。9月調査分より2.1ポイント低下したものの、横這いを表す50を8期連続で上回った。また、先行き判断DIは全県を通じて最高であった。業種別にみると、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが9月調査分を下回った。

表2 - 13 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成17年 12月	平成18年 3月	平成18年 6月	平成18年 9月	平成18年 12月
	合計		52.6	55.9	51.8	53.0
家計動向関連		48.0	56.6	50.0	53.4	50.7
企業動向関連		62.5	51.6	50.0	46.9	46.4
雇用関連		55.0	65.0	70.0	70.0	65.0

表2 - 14 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成17年12月	8.6%	20.7%	48.3%	17.2%	5.2%
平成18年3月	5.5%	27.3%	54.5%	10.9%	1.8%
平成18年6月	3.5%	15.8%	68.4%	8.8%	3.5%
平成18年9月	3.4%	25.9%	51.7%	17.2%	1.7%
平成18年12月	5.4%	10.7%	66.1%	17.9%	0.0%

鹿行地域

3か月先の景気の先行き判断DIは47.8となった。9月調査分より1.8ポイント低下し、横這いを表す50を2期連続で下回った。業種別にみると、企業動向関連DIは9月調査分を上回ったものの、雇用関連DIは横這い、家計動向関連DIは9月調査分を下回った。

表2 - 15 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成17年 12月	平成18年 3月	平成18年 6月	平成18年 9月	平成18年 12月
	合計		52.2	59.3	53.0	49.6
家計動向関連		48.6	59.9	50.7	48.6	44.1
企業動向関連		57.8	57.8	56.3	51.6	54.4
雇用関連		60.0	60.0	60.0	50.0	50.0

表2 - 16 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成17年12月	1.7%	22.4%	62.1%	10.3%	3.4%
平成18年3月	3.4%	39.0%	50.8%	5.1%	1.7%
平成18年6月	0.0%	30.5%	52.5%	15.3%	1.7%
平成18年9月	0.0%	19.3%	61.4%	17.5%	1.8%
平成18年12月	1.8%	16.1%	57.1%	21.4%	3.6%

県南地域

3か月先の景気の先行き判断DIは47.5となった。9月調査分より12.6ポイント低下し、横這いを表す50を6期ぶりに下回った。業種別にみると、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが9月調査分を下回った。

表2 - 17 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成17年	平成18年	平成18年	平成18年	平成18年
		12月	3月	6月	9月	12月
合計		56.9	64.0	56.8	60.1	47.5
	家計動向関連	57.4	66.7	56.3	62.5	49.3
	企業動向関連	53.1	56.9	58.3	56.9	43.1
	雇用関連	65.0	70.0	55.0	55.0	50.0

表2 - 18 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成17年12月	1.7%	43.1%	37.9%	15.5%	1.7%
平成18年3月	10.2%	42.4%	42.4%	3.4%	1.7%
平成18年6月	1.7%	39.0%	47.5%	8.5%	3.4%
平成18年9月	7.0%	40.4%	40.4%	10.5%	1.8%
平成18年12月	0.0%	20.3%	54.2%	20.3%	5.1%

県西地域

3か月先の景気の先行き判断DIは47.3となった。9月調査分より4.0ポイント低下し、横這いを表す50を2期ぶりに下回った。また、先行き判断DIは全県を通じて最低であった。業種別にみると、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが9月調査分を下回った。

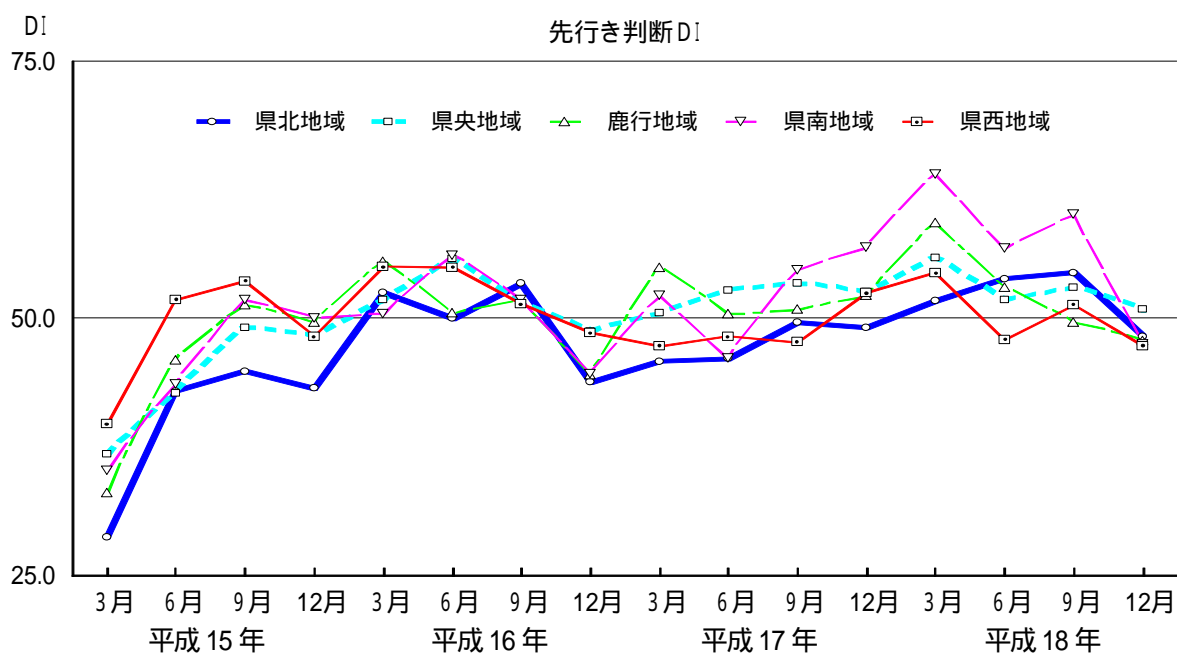
表2 - 19 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成17年	平成18年	平成18年	平成18年	平成18年
		12月	3月	6月	9月	12月
合計		52.5	54.4	47.9	51.3	47.3
	家計動向関連	52.1	56.1	47.2	50.7	49.3
	企業動向関連	51.3	51.3	48.7	50.0	40.6
	雇用関連	60.0	55.0	50.0	60.0	55.0

表2 - 20 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成17年12月	1.7%	28.8%	49.2%	18.6%	1.7%
平成18年3月	1.8%	26.3%	59.6%	12.3%	0.0%
平成18年6月	1.7%	16.7%	53.3%	28.3%	0.0%
平成18年9月	3.6%	23.2%	50.0%	21.4%	1.8%
平成18年12月	1.8%	12.5%	60.7%	23.2%	1.8%

図2 - 2 地域別先行き判断DIの推移



3 回答率

地域	調査客体	回答数	回答率
全 県	300 人	283 人	94.3%
県北地域	60 人	56 人	93.3%
県央地域	60 人	56 人	93.3%
鹿行地域	60 人	56 人	93.3%
県南地域	60 人	59 人	98.3%
県西地域	60 人	56 人	93.3%

景気の判断理由

1 景気の現状判断理由

(1) 県北地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
良			
やや良くなっている	家計	スーパー	嗜好品の動きがやや上向きとなっており、また、ややグレードの高い商品の売行きも活発になっている。
		コンビニエンスストア	売上げは前年割れが続いているが、一時期の最悪な状態からは脱している。
		レストラン	近隣にデパートが開店したため、やや良くなっている。
		スナック	ボーナスや忘年会による一時的な効果かもしれないが、9、10、11月の売上げは、8年間営業している中で最低であったが、12月に入り例年ほどではないものの、やや客が増加した。
		観光型ホテル	売上げが少しずつ伸びてきている。
		観光型ホテル	来場者数が増加している。
		タクシー運転手	売上げが伸びている。工場関係者の利用がやや増加しているように感じられる。
		ドライブイン	今年はなかなか寒くならなかったため、昨年と比べ行楽客が増加している。
		美容室	ボーナス時期であり、集客が見込める。
	企業	林業関係者	木材市況が安定し、年末に向けて販売率に期待が出来る。
		水産業関係者	小型曳網船は平年並みの水揚げであるが、まき網船においては「鯖」の大漁が続いている。また、漁船用の燃料が若干値下がりしている。
		製造業（電気機械器具）	受注及び作業量が増加している。
		製造業（電気機械器具）	顧客からは発注量アップの予測から、納期についての問い合わせが増加しており、良くなっている状況が感じられる。
		製造業（電気機械器具）	一過性のことではあるが、受注が増加傾向にある。
		製造業（電気機械器具）	生産量が増加している。
		不動産業	市街地でのマンションが順調に推移している。また、大型分譲地の開発・分譲が開始された。
	雇用	公共職業安定所	求人は増加傾向で推移しているが、景気の先行き不透明感もあり、正社員ではなくパート・臨時の求人増であり、「良くなっている」とまでは判断し難い。また、求職者数は引き続き減少している。
		学校就業関係者	高校生の就職内定率が高い。
変わらない	家計	スーパー	客の買物動向に変化が見られない。
		衣料品販売店	客層及び買上単価とも変化が見られない。
		家電販売店	客は大型商品の購入には慎重であり、2・3度目の来店で購入する状況である。
		自動車販売店	例年どおりの状況が続いている。
		農産物直売所	秋の行楽シーズンが終了し、客数・客単価とも変化がない。
		小売業（酒類）	得意先の飲食店においては、忘年会シーズンに期待しているものの、前年実績を下回る所が多い。一方、金曜日は客が集中し、満席により入店を断ることも多いとのことである。
		旅行代理店	受注単価が上昇していない。
		タクシー運転手	県議選の影響からか、忘年会シーズンであるのに出足が鈍い。
		タクシー運転手	忘年会シーズンのため、一時的に売上げが増加するが、その後は変わらないと思われる。
		タクシー運転手	今年1年、売上げが伸びず景気が良いとは感じられなかった。今月は忘年会などで多少は忙しくなると思われるが、客からは景気の良い話は出てこない。

(1) 県北地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由
変わらない	家計	ゴルフ場	季節と天候に左右されるため、昨年並みの数字に近づけることで精一杯である。相変わらず、低料金の内容に集中する傾向が続いている。
	企業	製造業（食料品）	売上げはやや減少しており、収益は相変わらず上昇してこない。
		製造業（電気機械器具）	ボーナスは増加しているものの、業務・周囲の状況に変化はない。
		製造業（輸送用機械器具）	銅・アルミ・原油等の市況価格は依然として高止まっているが、契約価格に完全には反映できない。また、国内販売の低迷により作業量は減少傾向である。このため、品質向上や新技術の開発が強く求められてきている。
		建設業	仕事量は増加傾向にあり、人手不足感が強くなってきているが、採算性は悪化している。
		建設業	民間企業の動きが良くなり、公共工事も動いている。しかし、業種によって不安定感があり、地域格差も見られることから、まだまだ良くなっているとは思われない。
		情報通信業（情報サービス業）	大手製造業では受注が増加しているが、単価が低く収益は増加していない。
		金融業	ボーナスが支給され、個人消費が上昇するかと思われたが、大型店を見ても、取引先の個人事業者の話も聞いても消費者の財布のヒモは固いようである。
	雇用	人材派遣業	好調が続いている。
		求人広告	良いという声も悪いという声も聞かれず、相変わらずであるという声が多い。
求人開拓員		いざなぎ景気を越えたと言われていたが、事業所の経営者からはそのような実感は感じられないとの声が多い。	
やや悪くなっている	家計	商店街代表者	大型店が商店街周辺に出店したことにより、中心商店街への来客数が益々減少している。
		スーパー	大手衣料品店の客数が減少している一方、クリーニング店の客数は増加しており、新規購入が減少していることが窺える。また、食料品は相変わらず健康志向が強く、多品種少量の販売傾向である。
		コンビニエンスストア	県央・県南地区を中心に大型ショッピングセンターの開業が多く、県全体としては良くなっているように感じられる。しかし、当地域においては、集客要素がなく、また紅葉シーズンも短かったため下降気味であると感じられる。
		和食食堂	頻繁に来店していた客が数ヶ月に一度の来店となるなど売上げは落ちる一方であり、財布のヒモが固いように思われる。
		観光型ホテル	売店での客単価が減少している。
		ゲームセンター	当地域にショッピングセンターが新たにオープンしたが、集客には結び付いていない。
		レジャー施設	財布のヒモが固いようであり、消費の低下が見られる。
	企業	製造業（電気機械器具）	地元のショッピングセンター内の数店舗から、売上げの減少等により、撤退したいという話を耳にする。景気が良いのは大企業ばかりであり、中小企業以下は、依然として厳しい状況である。
悪くなっている	家計	居酒屋	飲酒運転の取締りが強化されて以降、確実に客数が減少している。
		理容店	個人事業者は皆厳しい状況であると思われる。
		クリーニング店	客数・客単価の落込みが大きい。

(2) 県央地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由
良く	家計	タクシー運転手	年間で一番の繁忙期であり、良くなったとは言いきれないかもしれないが、走行距離・売上げが伸びており、一時期のどん底状態とは明らかに違ってきている。
		美容室	例年のことではあるが、年末にかけて七五三・結婚式・成人式と行事が多いので、忙しくなっている。
やや良くなっている	家計	ファミリーレストラン	客単価が上昇している。また、常連客以外の来店が増加している。
		観光型ホテル	7月以降、順調に集客がある。また、客にも明るさが見受けられる。
		タクシー運転手	年末の歳暮時期となり、商店街も活気があり、飲食店街にも人が満ちている。
		建築設計事務所	工場などの設備投資が増加している。
	企業	製造業(印刷・同関連業)	売上げが伸びている。
		製造業(精密機械器具)	顧客企業において設備投資が拡大しており、引合い件数、受注額とも前年を上回っている。
		運輸業(道路貨物運送業)	年末になり、アパレルや福袋など貨物の動きが活発になっている。
	雇用	公共職業安定所	11月現在、有効求人倍率は3か月連続で1倍を超えている。また、有効求職者は8か月連続、雇用保険受給者実人員は9か月連続とそれぞれ減少しており、雇用情勢に明るさが見られる。管内事業所業況DIも0.2ポイント改善している。
		求人开拓員	求人数は増加しており、求職者数はかなり減少している。
	変わらない	家計	商店街代表者
百貨店、総合スーパー			高額品に動きがなく、客単価に変化が見られない。
百貨店、総合スーパー			相変わらず、特選品の動きが好調である。高額であっても価値観と価格がマッチすれば、多少背伸びしても購入している。
スーパー			特売商品、特に赤字商品しか売れず、買上点数が伸びていない。
スーパー			堅実な消費行動が続いている。
スーパー			客単価に大きな変化が見られない。
コンビニエンスストア			客単価が上昇しない。
自動車販売店			車の代替年数が伸びており、市場に伸びがない。
農産物直売所			客単価及び商品単価がほぼ横這いである。
専門スーパー			良くも悪くも感じられない。
専門スーパー			暖冬傾向にあるため、冬物商材の動きは鈍い。一方、作業面では活動しやすいため、資材関係(木材・土木)の動きが活発であるように思われる。
レストラン			前年と比べ、売上げ及び客数に変化がない。
レストラン			忘年会シーズンに入ったが、予約状況に大きな変化はない。客単価は、アルコール類の注文が少なくなっており、やや減少している。
都市型ホテル			宿泊客の動向に変化はない。また、宿泊プランも安さを求める客が大半であり、景気の良さは窺えない。
都市型ホテル			忘年会・新年会の時期になるが、予約状況は例年どおりである。
旅行代理店			ここ1年間大きな変化は見られない。
タクシー運転手			年末であるが、客数は増加していない。
ドライブイン			レストランの昼の客は前年並みであるが、夜の客が減少している。また、土産物は前年並みである。

(2) 県央地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由
変 わ ら な い	家計	観光名所	相変わらず、高額商品の動きが鈍い傾向が続いている。
		ゴルフ場	県内でも高いプレー料金であると言われている影響からか、前期と同様ビジターの申込みが減少している。
		レジャー施設	冬季を迎え、施設利用数が減少しているものの、景気に変動はない。
		レジャー施設	秋口より入場者数・売上げとも若干の上向き傾向は続いているものの、急激な伸びは見られない。
		住宅販売会社	変化している実感が無い。
	企業	製造業(食料品)	客単価が低く、景気は以前と変わらないか、やや悪化しているように思う。
		製造業(印刷・同関連業)	変わった様子は見受けられない。
		製造業(金属製品)	受注状況に変化は見られない。
		製造業(一般機械器具)	受注量に変化がない。
		情報通信業(情報サービス業)	地方市場においては、業種によりバラツキがあるものの、景況感としては横這いである。景気拡大がいざなぎ景気を超えたと言われているが、実感の薄い回復ぶりである。人員削減策などが効を奏した景気好調といわれているが、顧客との会話の中からも、過去の苦い経験を忘れない警戒感を抱えた回復基調であると感じられる。
金融業		一部には業績好調な企業もあるが、製造・物品販売・飲食等、大部分の業種は前年並みの売上げを確保することが精一杯であり、横這いの状態である。	
雇用	人材派遣業	年末に差し掛かり慌しさはあるものの、受注に変化はなく、景気の状態は変わっていない。	
	求人広告	飲食業やサービス業では売上げが上昇せず苦戦しているようである。	
	学校就業関係者	学生の就職内定率は好転はしていないが、良い状況が続いている。	
やや悪くなっている	家計	商店街代表者	経費削減が厳しく、法人需要は減少する一方であり、個人消費も厳しい。
		スーパー	近隣に競合店が出店し、周辺店舗も値下げをしてきている。
		ゲームセンター	水戸市を中心とした大型商業施設への集客が進み、周辺の中小施設は厳しくなっている。
	企業	農業関係者	ボーナス支給額が減少したとの話が多かった。また、農産物が安値であったため、農家の生活も苦しい状況である。
		サービス業(広告業)	年末・年始商戦に向けての広告宣伝の受注額・件数が前年比で5~8%減少している。
		サービス業(コソカケ業)	小売業の売上げが伸びていない。大半の零細小売業での売上げは前年比マイナスの状況となっている。
悪くなっている	家計	コンビニエンスストア	客は必要なモノしか購入せず、衝動買いをしなくなっている。同じ商品であれば低価格のスーパーで購入するなど購入店の使い分けが上手である。
		家電販売店	近隣に家電量販店がオープンした影響で、客の出入りがピタッと止まり、売上げが半減している。また、商店街にも人気がなくなっている。
	企業	製造業(窯業・土石製品)	受注金額・売上げとも減少している。

(3) 鹿行地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由
良	企業	建設業	当地域では住宅建築が盛んである。特に移住者が施主のものが多いようだ。
やや良くなっている	家計	商店街代表者	ここ1, 2か月, 小企業も含めて設備投資が見られるように感じられる。
		スーパー	年末ギフト商品の動きが良い。また, 高額商品の売行きは良くないものの, 3, 000円以下の商品の販売数量がアップしている。
		スーパー	買上率及び客単価の上昇が見られる。
		農産物直売所	昨年と比べ来客数・客単価とも増加している。
		衣料品販売店	ボーナスが支給された影響からか, まとめ買いをする客が増え, 客単価が上昇している。
		割烹料理店	忘年会の時期となり, 一時的にせよ多忙になると思う。
		日本料理店	年末なので客数は増加している。
		観光型ホテル	予約件数が増加している。
		タクシー運転手	企業関係の利用者が増加している。
		ゴルフ場	売店やレストランなどの付帯売上げが伸びている。
		室内装飾業	暮れにかけて, 部屋を綺麗にしようとする客があり, やや受注が増加した。
	企業	製造業(食料品)	季節商材(歳暮・おせち)の受注が増加している。
		製造業(化学工業)	原料価格は落ち着いたが, 製品の需要が旺盛でタイト感が強いいため, まだ売値に反映していない。
運輸業(道路貨物運送業)		全体的に貨物に動きが出てきている。また, 年末を迎え, トラックも順調に回転しており, 予測どおり仕事の引合いも来ている。	
不動産業		金利の上昇に伴い, 一般住宅地の買い入れが少しずつ増加している。	
雇用	人材派遣業	正社員の採用に慎重になっているためか, 派遣社員の求人が増加傾向にある。しかし, 求人に対応できる人材が不足している状況にある。	
	学校就業関係者	年末のため受注が増加しているようである。また, 新人教育に力を入れる企業が増加しており, 景気はやや良くなっているように思われる。	
	求人开拓員	仕事量は順調であるが, 単価に変化がない。一方, 原材料費が落ち着いてきたので, 経営面では良い影響が出ていると思われる。	
変わらない	家計	商店街代表者	農業や工業, サラリーマン等の所得は依然として減少傾向のようで, 売り上げにも変化は見られない。
		商店街代表者	設備投資が活発であるためか, 作業員相手の民宿は宿泊客が途切れない状態とのことであるが, 業種により恩恵に格差があると思われる。
		家電販売店	来客数は増加しているものの, 商品価格に対してシビアな傾向がまた強くなってきた。
		小売業(薬品店)	景気回復の実感はあまりないが, 消費は回復傾向にあるように思われる。
		小売業(金物店)	以前は, 10月~12月は多忙な時期であったが, 現在はそのような実感はない。
		タクシー運転手	収入は横這いである。また, 個人消費も必需品に留まっている。大企業の業績はかなり良いようであるが, 個人には反映していない。
		タクシー運転手	売上げに変化がない。
		ドライブイン	好天に恵まれたため, 11月に入り農産物価格が低下した。しかし, 供給量の増加に対し, 需要が横這いであったため, 目立った増益とはならなかった。
		パチンコ店	景気回復と騒がれているが, 客の投資金額や滞留時間を見る限り, 変化はない。
		住宅販売会社	相変わらず, 若年者層の動きは良いが, それ以外の者には変化がない。

(3) 鹿行地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由	由
変 わ ら な い	企業	農業関係者	今年は野菜の生育には最良の条件が続いたため、「豊作貧乏」という言葉がびったりの秋であった。	
		製造業（食料品）	12月は例年、月初めに客数が減少し、半ば以降に回復する傾向がある。しかし、売上げは3ヶ月前とあまり変わらないと思う。	
		製造業（飼料）	鳥インフルエンザの終息宣言により養鶏業界が活発になっている。このため、飼料業界は9月以降、出荷数量の増加が継続している。	
		製造業（印刷・関連業）	良くなったとも悪くなったとも感じられない。	
		製造業（化学工業）	販売量も横這いであり、ボーナスも増額がなかった。	
		製造業（窯業・土石製品）	大手鉄鋼業の業績好調を受け、設備投資も計画に沿って順調に進んでいる模様であり、当面は明るい材料が多い。また、近隣企業では来春新卒者の確保が難しいとの話を聞く。さらに、今年のボーナス支給平均額も過去にない高額となり、代行・タクシーの利用率は上昇傾向であるとの話を聞くと、企業の二極化はあるものの、景気の回復感が窺える。	
		製造業（金属製品）	老朽化した建物や設備が積極的に更新されており、引き続き好調である。	
		運輸業（道路貨物運送業）	地元の製鉄所の生産が順調なため、近隣の関連企業では景気の良い状態が続いているようである。	
		金融業	全般的に消費に伸びがなく、景気好転の兆しは感じられない。	
		保険業	依然としてあまり良くない状態が続いている。	
		サービス業	順調な受注が続いているものの、値上げ交渉が難航している。	
	雇用	公共職業安定所	求人は増加傾向であるが、業種間に偏りがあるため閉塞感がある。一方、求職者は引き続き減少傾向である。また、就職者数は微増している。	
や や 悪 く な っ て い る	家計	コンビニエンスストア	売上げが前年を下回っており厳しい状況である。	
		コンビニエンスストア	買上点数が少ない。また客層では、コンビナートで働く職人さんの数が減ったように感じる。	
		小売業（菓子販売店）	売上げが落ち込んでいる。	
		洋食食堂	9月以降、飲酒運転の取締りが強化され、夜に外食する機会が減少しているように思われる。	
		観光型ホテル	宿泊料、売店売上げ、飲料売上げの減少により客単価が低下している。	
		観光名所	例年のことではあるが、年末・年始は観光客が減少する。	
		クリーニング店	野菜農家は、低価格の影響で手間賃も出ず、やればやるほど赤字になるとのことであり、専業農家も5～7月の悪天候の影響で、実がなる頃には枯れてしまうとのことである。また、飲食店においては、飲酒運転の取締りの強化により、客数が減少しているようである。	
		住宅販売会社	展示場への来場者がやや減少している。	
企業	民間職業紹介業	近隣の大手企業は直接雇用を行っており、また、同業者の参入もあって、ここ1年程は企業の求める人材を確保することが非常に難しい状況が続いている。		
悪	家計	小売業（書店）	メディアで取り上げられる物に話題性がある物が少なく、客の購買意欲が失われているように感じられる。	

(4) 県南地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由
良くなっている	家計	ゴルフ場	ハイヤーや社用ドライバー付きで来場する客が見られ、社用・接待での利用が増加している。
	企業	製造業（食料品）	ギフトシーズンということもあり、市内全体で客の流れが良くなっている。
		製造業（食料品）	年末の繁忙期により、景気は良くなっている。
		建設業	これまでは価格競争に負けていたが、インターネットを使用し仕入業者及び下請業者を拡大した結果、価格を15%程度ダウンさせることができ、一挙に受注が増加した。このため、技術者の人手不足に陥っている。
やや良くなっている	家計	スーパー	僅かではあるが買上点数が伸びている。野菜相場が下落したものの、点数でカバーできた。
		スーパー	売上げが順調に伸びており、特に酒類の売上が伸びている。また、景気が良い時の傾向であるが、シフターの採用が難しくなっている。
		家電販売店	ボーナスが支給され、商品を購入する客が増加傾向にある。
		農産物直売所	天候の影響で農産物価格が低下しているが、ここ3か月の売上げは前年を上回っており景気の回復傾向が見られる。
		専門スーパー	暖冬の影響により、防寒・暖房用品の売上げは減少しているものの、他の商品の売上げは前年を上回っている。
		洋食食堂	忘年会やボーナスの支給により来店客数が増加している。
		都市型ホテル	昨年と比べ忘年会の件数が増加しているように感じられる。
		都市型ホテル	宴会部門においては、忘年会等により多少良くなっている。また、宿泊に関しても、飲酒運転の取締り強化もあり増加している。
	美容室	地域通貨発行プレミアム商品券の効果が地元還元されている。	
	企業	農業関係者	年末に向け、やや不景気感が薄れているように感じられる。
製造業（窯業・土石製品）		受注が増加してきており、年末に向けさらに工事が多くなってきている。	
製造業（一般機械器具）		当社において、契約社員の募集広告を掲載した際、他社においては正社員募集の広告が増加しているように感じられた。	
雇用	公共職業安定所	求人は建設業・情報通信業等では減少しているものの、製造業・卸売小売業・医療福祉等では伸びており、総数は増加している。一方、求職は横這いであるため、有効求人倍率はやや改善している。	
	雇用相談員	求人企業は相変わらず多いが、求職者は減少してきている。また、このところ派遣会社からの求人依頼が増加している。	
変わらない	家計	スーパー	客数は減少しているが、単価はアップしている。
		スーパー	近隣に11月に大型ショッピングセンターがオープンし、客数はやや減少したものの、売上は前年並みであった。
		スーパー	客数は増加しているが、単価が昨年並みで推移している。客からも景気が良くなったという声は聞かれない。
		コンビニエンスストア	昨年と比べ売上げに変化はない。
		コンビニエンスストア	商品の販売動向及び客の購入スタイルに大きな変化は見られない。
		衣料品販売店	良くなっているのは一部の業種であり、所得の二極化が更に進行しているように感じられる。
		農産物直売所	来客数は増加しているものの、客単価が減少している。
		和食食堂	客数に伸びがなく、単価も低い。
		寿司店	年末を迎え、多少は良くなると期待していたが、客の話を聞いても景気が良くなっている様子はない。むしろ、やや悪くなっているのかもしれない。
		旅行代理店	ツアーの予約状況に変化がない。
タクシー運転手	ボーナス時期にしては景気が悪い。		

(4) 県南地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由	由
変わらな い	家計	ゴルフ場	特定の日に来場者が集中するため活気があるように感じられるが、来場者数は昨年をやや下回っている状況であり、変化はないと思われる。	
		ゲームセンター	新たな商業施設がオープンしており、旧来のショッピングセンターへの来客には減少傾向が出始めている。	
		レジャー施設	弁当を持参し、園内施設での飲食を控えており、また、土産品の購入も控えていることから、客の消費意欲は弱く景気が良くなっているとは思われない。	
		建築設計事務所	民間工事はほとんどなく、官公庁の仕事が頼りである。	
	企業	製造業（食料品）	コンビニ向けでは、単価の低いおにぎりの出荷が多い状況であり、500円位の弁当の出荷が増加していない。	
		運輸業（道路貨物運送業）	燃料費が低下せず、また、運賃の値上げ交渉もできないため、売上げが伸びない。貨物の保管も、引合いはあるが成約に至らない。各地区の倉庫も空いている状態のようである。	
		金融業	取引顧客は中小企業が主であるが、大企業先行の景気回復の恩恵を受けていない。中小建設業は減少傾向の受注量に回復が見られず、また、入札競争の激化により受注金額も下落している。	
		不動産業	良くなっている面と悪くなっている面とで幅があるが、平均すると変化はない。	
	雇用	人材派遣業	大幅な増員の依頼もなく、応募者数にも変化がない。	
		求人広告	必要な時に支出しているという状況であり、良くも悪くもなっていないと思われる。	
学校就業関係者		大きな動きはない。		
やや悪 くなっ てい る	家計	自動車販売店	客との会話において、景気が悪くなっているとの声を多く耳にする。また、販売台数も厳しい状況である。	
		ガソリンスタンド	原油価格の高騰にもかかわらず、安値で販売しているのが現状である。パブル全盛期に全国で6万件あったSSは、現在4万5千件と淘汰されている。	
		タクシー運転手	つくば地区においては、つくばエクスプレス開業による効果も一段落した感がある。	
		タクシー運転手	昨年と比べタクシー利用者が減少している。	
		タクシー運転手	11月に入り売上げが減少している。12月も忘年会の減少が予想され良くなるとは思われない。	
		パチンコ店	昼間の稼働が少ない。	
		美容室	正月を控え、財布のヒモが固いように思われる。	
		住宅販売会社	来客数がかなり減少している。	
企業	製造業（食料品）	売上げが減少しているが、人件費及び物流費は下がらないため、製造コスト高により悪化している。		
	製造業（窯業・土石製品）	大企業は好調であると言われているが、中小や地方企業に対しては施策がなく活気が感じられない。		
	建設業	例年、年末は受注が増える時期であるが、今年は少ない。また、利益率も減少している。		
	建設業	客は大手住宅メーカーの展示場で現物を見ながら決めてしまうことが多くなった。このため、当社のような設計図を基にプレゼンを行う営業活動は現実味に乏しく、客は大手住宅メーカーに流れてしまう傾向が顕著になってきているように感じられる。		
	建設業（設備工事業）	客は発注する際、他社からも見積りを取り、安値で受注する企業を選んでいる。		
悪くな っている	家計	タクシー運転手	バスとの競合により、タクシー利用客が減少している。	
	企業	製造業（印刷・同関連業）	売上げが減少しており、ボーナスも支給していない。	
		製造業（非鉄金属）	売上げが前年比10%弱減少している一方、材料価格は前年比20~40%弱上昇しており、収益が悪化してきている。	

(5) 県西地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由
良 く	家計	和食レストラン, 割烹	飲酒運転の取締り強化のためフリーの客数が伸びないものの, 忘年会時期となり良くなっていると感じられる。
	企業	製造業(食料品)	グループ内のプロスポーツチームの躍進があり, この秋は思いがけない特需に見舞われた。増産に次ぐ増産で目が回るような忙しさであった。
や や 良 く な っ て い る	家計	農産物直売所	ボーナス時期であるが, 各業種とも状況は良いようである。当店においても高価格にもかかわらず, みかん類の売行きが昨年並みに良い。
		和食食堂	売上げが増加している。また, 宴会もやや多い。
		都市型ホテル	地元中心の販売業は良くなってはいないようであるが, 客の様子から製造業は良くなっていることが感じられる。
		旅行代理店	飲酒運転の取締り強化のためか, 今年は宿泊による忘年会が増えているように思われる。
		タクシー運転手	例年のことではあるが, 師走に入りやや良くなっているように感じられる。
		タクシー運転手	飲食店や個人の顧客が多いので, 例年, 忘年会シーズンはタクシー利用客が増加する。
		タクシー運転手	相変わらず, 景気は上昇, 下降を繰り返しており安定感はない。依然として, 良いところと悪いところの差が目立つ。買物客の利用はぱっとしないが, 工業団地へのビジネスマンの利用がやや増加している。
		ドライブイン	ガソリン価格の高騰により, 一般客が減少したように思われるが, 団体バス客は増加している。
		ゴルフ場	やや予約件数が増加したように感じられる。
		クリーニング店	衣替えのため, 夏物衣料や冬物の残りが出されている。
変 わ ら な い	企業	不動産業	来客者の希望価格に上昇が見られる。
	雇用	公共職業安定所	求人が増加している一方, 求職者は減少している。
		就職相談員	求人企業は増加しているが, それに比べ求職者が少ない。
変 わ ら な い	家計	スーパー	悪くはないと思うが, 売上・客数とも横這いである。
		スーパー	昨年と比較し売上げに変化がない。
		コンビニエンスストア	客の買上点数や単価に大きな変化は見られない。
		コンビニエンスストア	消費環境は特に変化していない。消費者の質へのこだわりは明確であり, また, 選択肢が広がっていることから, 選別による単価のダウンが原因と思われる。
		衣料品販売店	例年どおりの売上げで推移しており, 特段良くなってはいない。
		専門スーパー	来店客数が横這いである。昨年と比べボジョレー・ヌーボーなども話題性がなく景気に変動はない。また, クリスマス商品の関心も低い。
		ガソリンスタンド	テナントや住宅の新築がない。
		和食食堂	昨年と比べるとやや来客数が増加しているように思われるが, 前期と比較してさほど変化はない。
		タクシー運転手	月々の売上げがあまり上昇していない。
		ドライブイン	客数が減少しているものの, 特に大きな変化はない。
		ゴルフ場	予約状況及び単価に変化が見られない。
		ゲームセンター	マーケットに変化は見られない。
		理容店	良くなったという話は聞かれない。
		建築設計事務所	当所の状況はやや良くなっているように思われるが, 同業者からは良くなっているという話が聞かれない。

(5) 県西地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由	由
変 わ ら な い	企業	農業関係者	白菜の廃棄処分がなければ良くなったと思われる。	
		製造業（食料品）	正月用品を扱っているため、製造・販売数量とも大きく伸びるが、相変わらず原料・資材高の影響がある。	
		製造業（印刷・同関連業）	以前は、この時期になると商店の売出しなどで年末の活気が見られたが、現在は全く感じられない。スーパーやコンビニに集客されているようである。	
		製造業（金属製品）	新規の引合い件数に変化がない。	
		製造業（一般機械器具）	菓子製造関連企業においては、修理部品を今までの3分の1にし、在庫を持たないようにしている。また、自動車関連企業は仕事はあるものの、利益が出ない状況のようである。一方、仕事があり好調な企業もある。	
		製造業（電気機械器具）	事業所への来客数に変化がない。	
		金融業	一部では、受注・販路拡大による資金需要があるものの、全体的には、依然として売上げは横這いであり、資金需要に大きな変化は見られない。	
		サービス業（広告業）	年度末による忙しさはあるが、変化はない。	
		サービス業（コカク外業）	取引先企業を見ても変化が見受けられない。	
	雇用	人材派遣業	売上げが伸びていない。	
学校就業関係者		企業により業務量に大きく差があり、残業がほとんどない企業と残業が増加している企業と様々である。求人については、2社から来た程度である。		
や や 悪 く な っ て い る	家計	商店街代表者	中心市街地の商店街は客数が減少しており、特に日曜日は激減している。	
		スーパー	業界では価格競争が激化しているが、例年と比べかなり売行きは悪くなっている。	
		自動車販売店	販売台数が前年割れしている。	
		和食食堂	夜の集客が悪くなっている。アルコール類の減少が大きい。	
		パチンコ店	客数の動向を見ると、景気は悪化していると判断せざるを得ない。	
		レジャー施設	原油価格高騰の余波が家計に影響している。また、企業の忘年会なども縮小傾向にある。	
		理・美容店	客の来店サイクルが低下しており、売上げが減少している。	
		住宅販売会社	来店客数が減少している。	
企業	農業関係者	外食する人が減少傾向にある。		
	製造業（印刷・同関連業）	官公庁の入札・見積金額が積算標準価格の半値といった例があり、過当競争が激化している。		
	製造業（窯業・土石製品）	年末に向かい動きが思うようでなくなった。		
	建設業	都市部では好景気と言われているが、当地域では悪いと感じられる。原油価格の上昇により、輸送費・石油製品が値上げされているが、競争が激しいため、受注額は一向に上がらない状況である。		
雇用	求人広告	年末のアルバイトの募集が減少している。		
悪	家計	商店街代表者	暮れになっても財布のヒモは固いように感じられる。	

景気の判断理由

2 景気の先行き判断理由

(1) 県北地域【先行き】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
良			
やや良くなっている	家計	スーパー	昨年より、クリスマスや年末商材の動きが良いので、現状が維持できれば、多少は良くなると思われる。
		観光型ホテル	客にとって必要なモノ、満足感のあるモノに対しては支出されている。
		ドライブイン	雇用を拡大している企業が増加しているように思われる。また、欲しい商品のためには燃料費も気にせず遠方より来店する客が多い。
	企業	製造業（電気機械器具）	受注が拡大すると思われる。
		製造業（電気機械器具）	顧客の状況から判断して、やや良くなっていると思われる。
		製造業（電気機械器具）	今後も当社製品（バイオ・半導体関連）の需要が見込まれており、また新規外注先の開拓も実施しているため、好調を維持すると思われる。
		不動産業	金利や消費税の動向を考慮し、不動産購入時期の前倒しを検討する客が増えてきている。
変わらない	家計	スーパー	マイナス要素はないので現状のまま推移すると思われる。
		スーパー	ガソリン価格が低下してはいるが、再度上昇することが予想されれば悪影響が出る。また、金利上昇も景気には逆効果であり、様子見の状態から、財布のヒモはやや固いようである。
		コンビニエンスストア	景気回復、企業の業績改善と言われているが、それは一部の大手企業に限られており、その他は依然として厳しい状況が続いている。
		衣料品販売店	店舗が減少し、歩行者が益々減少している状況であり、来客数・単価とも変化はないと思われる。
		衣料品販売店	客数及び客単価が伸びていない。
		家電販売店	ヒット商品が少ない。一方、前年同期から薄型テレビ（液晶・プラズマ）の売行きが良くなっている。
		自動車販売店	車の代替年数が延びており、車検を更新する客が増加していくと思われる。
		レストラン	県議選が告示され街は宣伝カーで賑わっているが、売上げには何の効果もない。また、近隣に開店したデパートは日が経つにつれ客足が遠のいている。
		居酒屋	常連客に支えられているため現状維持であると思われる。
		和食食堂	近隣企業の社員の来店がほとんど無い状況である。
		観光型ホテル	宿泊、宴会とも予約状況に変化が見られない。
		旅行代理店	単価がアップするような要因がない。
		タクシー運転手	利用客に変化がない。歓送迎会に期待したい。
		タクシー運転手	企業関係では一部良い話が出ているものの、全般的にあまり良い話はなく、横這いであると思われる。
		タクシー運転手	地元の工場関係では特に大きな動きはないようであり、先行き変化はないと思われる。
		ゲームセンター	客の消費に対する厳しさに改善する兆しが無い。
		レジャー施設	当施設を含めた周辺地域において、人や物の動きに影響を及ぼすような新規事業がなく、変化は期待できない。
		美容室	正月支度により1月は好調となるが、2、3月と右肩下がりになると思われる。
		企業	林業関係者
	水産業関係者		このまま漁獲に変動がなければやや良くなっていると思われるが、「鯖」や「鰯」の出現が不定期なので現状維持であると思われる。
製造業（食料品）	ガソリン価格は低下しているものの、その他は好転している感じが無い。		

(1) 県北地域【先行き】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
変 わ ら な い	企業	製造業（電気機械器具）	材料費（非鉄金属類）が上昇しており、利益を圧迫している。
		製造業（電気機械器具）	業種により様々ではあるが、特に好調なところもないようであるが、大型店に客を取られる業種は厳しいと思われる。
		製造業（輸送用機械器具）	現状の経営状態が継続すると予想されるため、北米への販売拡大に期待している。
		建設業	先行きも現在と同様、繁忙感だけが強い状況が続くと思われる。
		建設業	地域格差がある中、企業の進出が見られないことから、消費者の動きに変化がなければ、先行きは変わらないと思われる。
		情報通信業（情報サービス業）	今後も案件は見込まれるが、価格競争が激化するとと思われる。
		金融業	現状において、景気に上昇・回復感が感じられず、先行きも同様に推移するとと思われる。
	雇 用	人材派遣業	好調が続くと思われる。
		公共職業安定所	求職者は引き続き減少していくものと思われる。一方、求人については、主要企業において先行き不透明感があり人員に過剰感もある。また、原油価格の高騰の影響もあり、良くなる期待は薄い。
		学校就業関係者	昨年と比べ、企業の求人は横這いもしくはやや増加傾向であるが、一部の産業に偏っているように思われる。
求人开拓員		景気と無関係の業種（介護・看護・薬剤）は、相変わらずの人手不足である。一方、製造業においては、派遣社員の採用が多く、景気の上昇感は感じられない。	
や や 悪 く な っ て い る	家計	コンビニエンスストア	景気が良くなる要素が見当たらず、現状維持もしくは悪化していると思われる。
		農産物直売所	例年、客数が減少する。
		小売業（酒類）	地元企業には活気が見られず、ボーナスが支給される中小企業は少ない。収入の減少により消費に影響があると思われる。
		スナック	例年、新年会が終わる頃には客足が遠のく。また、忘年会や新年会は年々質素になっているように思われる。
		観光型ホテル	年度末となり客足が落ちる。
		タクシー運転手	良くなる要因がない。
		ゴルフ場	これからオフシーズンに入るが、冬が暖かくなるか寒くなるかで来場者数は大きく左右される。予約状況からはやや悪くなっていると思われる。
		クリーニング店	客からも景気の悪い話が聞かれない。
企業	製造業（電気機械器具）	生産量が減少する予定である。	
悪	家計	理容店	同業者と会う度、だんだん悪くなって行くとの話が聞かれる。

(2) 県央地域【先行き】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
良くなっている	家計	ドライブイン	観梅シーズンとなり多忙が予想される。
	企業	製造業(精密機械器具)	当社の決算月となるため、例年顧客企業より年度末予算に合わせた当月受注、当月出荷が見込まれる。
	雇用	人材派遣業	年度末になることから、人的需要が非常に増加するため、長期の雇用につながるかは別としても、多くの採用が見込まれる。
やや良くなっている	家計	スーパー	競合店出店による価格競争も落ち着くと思われる。
		自動車販売店	年度末の需要期になるため期待している。
		レジャー施設	入場者も順調に伸びており、今後も緩やかではあるが上向きの傾向は続くと思われる。
		美容室	卒業式や結婚式が多くなるため、やや良くなっていると思われる。
	企業	製造業(印刷・同関連業)	受注がやや増加している。
雇用	公共職業安定所	郊外へ大型食料品店や衣料品販売店の進出が予定されており、求人増が見込まれる。	
変 わ ら な い	家計	商店街代表者	良くなる要因が見当たらない。
		商店街代表者	景気が上昇する要素はないが、イベント開催・情報誌の発行・イルミネーションの設置・花壇の植替えといった商店街活動を行っており、集客に期待している。
		百貨店, 総合スーパー	一般消費を刺激するような要因が見当たらない。
		百貨店, 総合スーパー	引き続き、欲求の高いモノ、必要なモノには購買意欲が高まると思われる。
		スーパー	良くなる傾向が感じられない。
		スーパー	好転する要因が見当たらない。
		スーパー	良くなる要因がない。
		コンビニエンスストア	客単価が上昇する見込みがない。
		家電販売店	引き続き、近隣にオープンした家電量販店の影響を受けると思われる。
		専門スーパー	暖冬であれば灯油関係の消費が鈍くなり、家計への影響はないと思われるが、寒さで需要が高まれば、一般消費が冷え込むことが懸念される。
		レストラン	前年と比べ、予約状況に変化がない。
		レストラン	ボーナスが支給される時期となったが、昨年より増加したという話も聞かれず、消費の伸びは期待できない。
		ファミリーレストラン	ボーナスの支給により利用回数は増加しているが、今後に影響するかは分からない。また、景気が良くなるといった話も聞かれない。
		都市型ホテル	割安感を求める客は、現状のまま推移すると思われ、景気に変化はないと思われる。
		都市型ホテル	職種により、良くなりつつある業界、厳しい状況にある業界とあるが、平均すれば変化はないと思われる。
		観光型ホテル	正月を機にやや消費が控えられると予想され、大きく良くなることはないと思われる。
		タクシー運転手	景気がやや良くなっても、タクシー業の景気は変わらないと思われる。
		タクシー運転手	12月と3月は繁忙期であり、走行距離・売上げとも変わらないと思われる。
		観光名所	春に向け客が増加していく時期であり期待したいが、予約状況は例年並みである。何か明るい話題でもない限り、良くなっては行かないと思われる。
		ゲームセンター	客の消費傾向に変化はなく、今後も大型施設へ傾倒すると思われる。

(2) 県央地域【先行き】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由
や や 悪 く な っ て い る		レジャー施設	昨年に比べ利用数が若干増加してはいるものの、変化はないと思われる。
		理容店	大企業は良いという話は聞かすが、個人店は未だ底であり、良くなると思われない。
		建築設計事務所	民間の景気が上向きであっても、公共事業が減少傾向であるため、それ程変化はないと思われる。
		住宅販売会社	良くなる要素が見当たらない。
	企業	農業関係者	今後、変わるような状況はない。
		製造業(食料品)	既存店舗の売上増は見込めず、新規出店で対応するしかない。
		製造業(印刷・同関連業)	変化するような要素は見当たらない。
		製造業(窯業・土石製品)	先行きの受注が不透明である。
		情報通信業(情報サービス業)	個人消費のマイナス、金利引き上げ予測、国内新車販売台数の減少など先行きの懸念材料も多々あるが、長期間続いた景気回復基調が一旦に崩れるとは思えず、引き続き横這いで推移すると思われる。
		金融業	特別な好材料も見当たらず、現状のまま推移すると思われる。
		不動産業	客からは景気が良くなったという話は聞かれない。
	雇用	求人広告	個人消費に回復が見込めない。
		学校就業関係者	人事担当者の話からは、来年度の就職戦線においても、良い人材は大手企業が大半を確保し、中小企業は人材確保に苦勞することであり、景気の大きな変動はないと思われる。
求人開拓員		良くもならず、悪くもならず、今後もそれ程変化はないと思われる。	
や や 悪 く な っ て い る	家計	コンビニエンスストア	給与が増加しているという話が聞かれない。好調なのは大手メーカーや都心の一部の企業だけであると思われ、水戸市においては景気の良い話は聞かれない。
		農産物直売所	冬場の品薄により売上げの減少が予想される。また、寒さにより客の行動範囲が制限されるため、来客数の減少も予想される。
		タクシー運転手	観梅や卒業式の時期となるが、年末に比べれば、やや景気は鈍くなる。
		タクシー運転手	飲食が控えられているため、タクシーの利用はないと思われる。
		ゴルフ場	1月から3月にかけてシーズンオフに入るが、例年どおり予約申込み件数に伸びが見られない。
企業	製造業(金属製品)	生産調整が始まっている。	
	運輸業(道路貨物運送業)	新規の貨物の引合いが期待できそうもない。また、原材料高、燃料高を製品価格に転嫁できない。	
	サービス業(広告業)	年末・年始の広告宣伝が減少したことを考えると、春に向けても大きな拡大は望めない。地方の中小企業は相変わらず厳しい状況である。景気が上向いているという報道に対して、「一般市民レベルで判断していない。無意味である。」と取引先の中小経営者は呆れている。	
	サービス業(コンサルト業)	消費は減少し続けると思われる。	
悪			

(3) 鹿行地域【先行き】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
良	企業	建設業	市街化調整区域の話があるが、建築は4～5年続くと思われる。
やや良くなっている	家計	スーパー	マスコミ等で景気が上向きであると報道されているが、給与は増加しておらず、実感がないのが現状である。ただし、消費は少しずつ上向いてくると思われる。
		農産物直売所	予約注文件数が増加している。
		タクシー運転手	代行の利用が増加している。
		観光名所	子供たちが春休みに入る時期なので、客足も期待できると思う。
	企業	農業関係者	春先の需要期に期待している。
		製造業（化学工業）	期末にかけて増産を見込んでおり、販売量も増加する見込みである。また、高騰していた電気蒸気の価格も下がると聞いている。
		不動産業	大手企業の人材募集が増えており、賃貸物件が好調である。
変わらな	家計	商店街代表者	国内経済の循環性が動脈硬化のように滞っている限り、地域産業にまで収益増の傾向は至らない。よって、消費者も財布のヒモを緩められないのだと思う。また、近隣の臨海工業では景気が良くなっているようだが、給与は増えていないようである。
		商店街代表者	ボーナス時期となるが、財布のヒモは固く消費に繋がらないと思われる。
		商店街代表者	一部に上向きの傾向も見られるようであるが、全体を牽引する程には至らないようである。
		スーパー	客や取引先の様子からは大きな変化はないと思われる。
		コンビニエンスストア	企業のボーナスは増加しているものの、消費には変化がない。
		家電販売店	販売件数は増加しているものの、単価が減少している。年明けに一般発売される新OS（Windows Vista）搭載パソコンの売れ行きに期待したい。
		小売業（金物店）	民間需要は多少出てきているが、公共事業の仕事がないため、全体的には変わらないと思われる。
		衣料品販売店	1,000円未満の商品でも悩んで購入する客が多く見受けられることから、目に見えて生活に余裕が出てきたといった変化は見られない。
		洋食食堂	飲酒運転の取締り強化の影響は今後も続き、夜間外食の機会が減少する傾向はこのまま続くと思う。
		タクシー運転手	3か月程度では良くなるとは思わない。毎日が流動的であり、明日が予測できない。また、当地域では観光以外に経済効果が見込める産業がない。
		ドライブイン	景気回復との報道がされているが、庶民レベルでは実感がないため、先行きの見通しも楽観視できない。また、原油価格の高騰が続いており、年末年始の帰省や行楽にも影響することが予想される。
		室内装飾業	これといった景気の回復は見受けられない。
		住宅販売会社	現状が続くと思われる。
		いい	企業
製造業（飼料）	鳥インフルエンザ終息による養鶏飼育数の増加により、今後も出荷数量の増加が続くと思われる。		
製造業（化学工業）	原油価格の動向次第では、製品の値下げ要求が多少懸念されるものの、タイトな状況は暫く継続すると思われる。		
製造業（窯業・土石製品）	当社を取り巻く環境としては、公共事業の伸び悩みにより厳しいものがあるが、大手鉄鋼業においては、昨年を上回る決算になる見通しであると思われる。また、お歳暮・忘年会・新年会も年々増加し、スーパーや飲食産業においては、売上げの伸びが見込まれる。しかしながら、極端に景気が良くなるとは思われず、全般的には現状維持であると思われる。		
製造業（金属製品）	先行きもフル操業状態が続くと思われる。		
運輸業（道路貨物運送業）	昨年と比べ貨物の動きは良くなってきてはいるが、物量的には変化が見られない。		
運輸業（道路貨物運送業）	地元製鉄所の生産量も先行き順調であるとの声が多く、良い状況は変わらないと思われる。		

(3) 鹿行地域【先行き】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
変 わ ら な い	企業	金融業	景気が好転する具体的な材料がなく、変化は期待できない。
		サービス業	各社の来年度の投資計画は本年並みであるところが多い。
	雇用	人材派遣業	当分、現状が続くと思われる。
		民間職業紹介業	求職者（登録者）の減少は今後も続くと思われる。
公共職業安定所		求人の動向に変化はないと思われる。また、求職の動向は鈍く、活発な労働移動は見込めない。	
		求人開拓員	求人動向には変化がなく、順調に推移していくものと思われる。
や や 悪 く な っ て い る	家計	コンビニエンスストア	夏頃から下降し始めた売上げに回復の兆しはなく、先行きにも明るさが見えない。
		小売業（菓子販売店）	小売業界は今後厳しい状態が続くと思われる。
		日本料理店	年末年始が過ぎ、客の入りは落ち着いてしまうと思われる。
		観光型ホテル	今後も客単価の減少が続くと思われる。
		タクシー運転手	一部の企業は好調であるが、他の業種はじり貧気味である。
		パチンコ店	業界の流れが不透明である。
		クリーニング店	個人事業主は大手スーパーに押され、売上げが減少しており、人件費や設備補修費もあって利益が出ない状況である。
		住宅販売会社	今年に入り展示場への来場者数は前年比15～20%程減少しており、今後も更に減少することが予想される。
企業	製造業（印刷・同関連業）	客からはやや悪くなっているとの話が聞かれる。	
悪 く	家計	小売業（書店）	良くなっているイメージは浮かばない。
		ゴルフ場	オフシーズンとなるため悪化すると思われる。

(4) 県南地域【先行き】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由	
良				
やや良くなっている	家計	スーパー	飲酒運転の問題で居酒屋の予約が減少しているとのことであるが、一般客の買上点数は伸びているので、先行きやや良くなっていると思われる。	
		スーパー	10月、11月の売上げが好調な時は、決まって年末も良いので、このまま、年末・年始と売上も順調に伸びると思われる。	
		スーパー	減少していた客数も回復してきており、また、売上也伸びているので、見通しは明るい。	
		都市型ホテル	各販売店は飽和状態であり苦戦すると思われるが、消費者から見れば選択肢は広がるため良くなっていると思われる。	
		都市型ホテル	宴会・宿泊両部門とも、新年会等の影響により多少良くなると思われる。	
		ゴルフ場	季節的に厳しい予約状況ではあるが、昨年同期よりも予約の増加が見込まれる。	
		美容室	駅前の大型空店舗が徐々に埋まり活性化が見られる。人口が増加することによって良い状態になりつつある。	
	企業	製造業(印刷・同関連業)	受注が多少増加すると思われる。	
		製造業(窯業・土石製品)	年度末に向け官公庁発注工事の売上げが見込まれる。	
		製造業(一般機械器具)	悪化するよう気配はなく、好景気がさらに続くと思われる。	
		建設業	一部上場企業及び非上場企業等、民間の取引先から継続的に受注している。特に、電力・食品・薬品関連企業からの注文が殺到し、設備投資が活発であることから、5月頃まで大幅な受注が見込まれる。	
	変わらない	家計	商店街代表者	収入の増加が見られない。
			スーパー	一世帯当たりの人員及び若年者の構成比とも減少傾向であり、景気が今以上に良くなることは難しいと思われる。
			コンビニエンスストア	景気が回復しても客は欲しい物しか購入しない。また、競争も激しくなっている。
コンビニエンスストア			一般消費者の生活水準が変化するような要素が見当たらない。	
衣料品販売店			所得・賃金が現状と変わらないと思われる。	
家電販売店			例年の流れから、シングルライフの需要が見込まれる。	
自動車販売店			決算期を迎えるが、非常に不安がある。	
農産物直売所			農産物不足により価格が高騰すれば売上げが大きく増加する可能性はあるが、現在の微増傾向が続くと思われる。	
和食食堂			良くなる要因がない。	
旅行代理店			寒くなる時期なので期待できない。	
タクシー運転手			先行き良くなるとは思われない。	
タクシー運転手			現状からは変化は見込めない。	
タクシー運転手			年度末に期待しているが見通しは暗い。	
ゴルフ場			判断が難しいが、来年の1・2月は前年並みであると思われる。	
レジャー施設		所得の増加や減税など目立った変化がなければ、客の消費意欲は向上しないと思われる。		
建築設計事務所	見積等の依頼がない状況である。			
企業	農業関係者	求人が目につくようになってきている。また、忘年会など飲食店にも明るさが戻ってきたように感じられる。		

(4) 県南地域【先行き】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由
変わらない	企業	製造業（食料品）	都心部からの受注は微増が続いているものの、地元の得意先からの受注が少なく、今後も改善の見込みがない。
		製造業（食料品）	年末の繁忙期であるが、昨年よりも良くなっている様子はなく、先行きも変わらないと思われる。
		建設業	年度末に向け工事受注や引合いが多くなる時期であるが、今年はあまり好況感がない。近隣農家においても米価は安値が止まらず、野菜は豊作貧乏の状態であり、地域全体に活力感が見られない。
		運輸業（道路貨物運送業）	先行きも変化はないと思われる。
		金融業	一般消費者の年末年始の消費は、郊外の大型ショッピングセンターに集中し、地元商店街が受ける恩恵は少ないと思われる。また、公共工事の削減により、今年度中の発注工事の増加は見込めない状況である。
	雇用	人材派遣業	先行きも大幅な増員の依頼は見込めず、また、応募者数にも変化はないと思われる。
		求人広告	サービスの提供は目立つものの、消費者の選別も厳しいため、状況はそれ程変わらないと思われる。
		公共職業安定所	人手不足感が出ており、先行きも同様の傾向で推移すると思われる。
		学校就業関係者	今年度中は現在の状況が続くと思われる。
		雇用相談員	製造業においては、好景気な大企業に比べ、中小企業においては、相変わらず製品単価の締め付けが厳しく、多忙な割には利益に結び付いていない。
やや悪くなっている	家計	スーパー	良くなる材料がない。
		洋食食堂	忘年会の客数は伸びてはいるが、単価が上がらず、売上げは伸び悩んでいる。居酒屋においても、宴会メニューではなく、単品で注文し、皆で分けあっていることもあるとの話を聞く。
		寿司店	ボーナスなしの企業もあるなど、公務員以外の支給額はよくない様子である。格差が広がっているように感じられる。
		パチンコ店	先行き良くなる見込みがない。
		ゲームセンター	新規オープンした商業施設へ客が流れる傾向が大きくなると思われる。
		美容室	今年は、例年より灯油が高いため光熱費が高くて厳しい状況である。
	企業	製造業（食料品）	例年、3月は暇なため落ち込む。
		製造業（窯業・土石製品）	盛上がりや活気が感じられない。
		建設業	年度末の受注増を期待していたが、見通しは良くない。
		建設業（設備工事業）	公共事業が減少しているため、薄利で受注する企業が増えている。
		不動産業	賃貸物件及び売却物件が生産過剰であり、買主及び借主とのバランスが悪くなってきている。
	悪くなっている	家計	ガソリンスタンド
企業		製造業（食料品）	例年、2月から3月の商品販売は年間を通じて最低になるが、今年も変わらないと思われる。
		製造業（非鉄金属）	受注は前年比10%弱減少する見込みであり、また、材料価格も上昇基調であるため、減収減益が予想される。

(5) 県西地域【先行き】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
良	家計	和食食堂	地元でプラスクーポン券（加盟店で使用可能な10%OFF商品券）を発行しており、効果が期待できる。
やや良くなっている	家計	コンビニエンスストア	今年で消費環境の底からは抜け出せることができると思われる。安価で良いモノは一通り買い揃えが済み、今後は、高価であってもより価値のあるものが受け入れられると思われる。
		旅行代理店	1月から4月にかけての日帰り観劇・歌謡ショーツアーを企画したが、申込みが良好である。また、個人の海外旅行が増加しているようである。
		タクシー運転手	ボーナス時期ということもあるが、居酒屋・スナックなどでは景気がやや上向いているようなので、徐々に他も上向くのではと思われる。
		建築設計事務所	仕事の問い合わせ等がやや増加している。
	企業	製造業（食料品）	数年来続いていた原料高もやや沈静化している。また、製造コストの引き締めや改善によって生産性を高めて業務遂行した結果、徐々に対予算値をクリアすることができ、今後もこの状況が続くと思われる。
		不動産業	新築アパート、マンションの価格が上昇傾向にある。
	雇用	公共職業安定所	ボーナスの支給により個人消費の拡大が見込まれる。
変わらない	家計	商店街代表者	特段良くなる要因もない。
		スーパー	ここ3ヶ月に変化はなく、先行きも変わらないと思われる。
		スーパー	食に対する支出に変化はないと思われる。
		コンビニエンスストア	給与額に変化がなく、客の消費動向にも変化はないため、売行きが良くなる見込みはない。
		衣料品販売店	高額商品を求める客もいれば、逆に少しでも安い物を求める客もあり、総じて変化はないと思われる。
		農産物直売所	急激に景気が良くなるとは思われない。半年位のスパンがないと見えてこないと思われる。
		専門スーパー	原油高の影響でプラスチック製品やビニール製品の価格上昇が避けられない状況にあり、いつ歯止めがかかるか不透明である。
		ガソリンスタンド	テナントや住宅の新築予定がない。
		和食食堂	客単価が上昇しない。
		和食食堂	夜の客が減少している。
		和食レストラン、割烹	飲酒運転の取締り強化の影響が懸念され、先が見えない。
		都市型ホテル	ここ数年変化はなく先行きも変わらないと思われる。
		都市型ホテル	年末までは良い方向に向かうと思われるが、それ以降は格差が出てくるように思われる。
		タクシー運転手	例年、3月に入ると暖くなるためタクシー利用者は減少するが、年度末から年度始めにかけては人の動きが良くなり利用者も増加する。
	企業	ドライブイン	ガソリン価格が低下しない限り、一般客は増加しないと思われる。
		ドライブイン	大きな変化はないと思われる。
		パチンコ店	大きな変化がない限り、景気の変動はないと思われる。
		ゲームセンター	水戸市近隣施設への集中も一服し、客が戻ってきているように感じられる。
		レジャー施設	景気が回復していると実感している人があまりに少ない。
		理・美容店	平成17年、18年と変化はなく、来年も同様であると思われる。
企業	農業関係者	現状が続くと思われる。	

(5) 県西地域【先行き】

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
変 わ ら な い	企業	製造業（印刷・同関連業）	来年4月に統一地方選挙を控えており、各業種とも活況を呈することを期待したいが、どうなるかは不透明である。地方の時代と言われて久しいが、経済的には何の効果も表われないのが現状である。
		製造業（一般機械器具）	同業者との会話の中では、景気が良いのは大企業であり、町工場では今までと変わりはないとのことである。
		金融業	景気を刺激する材料がないため、生産・販売の伸張は見込めず、資金需要に変化はないと思われる。
		サービス業（広告業）	業績好調で新分野に参入する企業がある一方、再建するのに必死な企業もあり、全体的な景気に変動はないと思われる。
	雇用	人材派遣業	悪化も考えられるが、変わらないと思われる。
		求人広告	年度末に向け、新規求人をする企業は減少する。
学校就業関係者		大手企業においては残業を削減しているが、パネ・鉄道レールメーカーにおいてはかなり多忙なようである。	
や や 悪 く な っ て い る	家計	商店街代表者	景気は上向いていると言われているが、当地域においては全く感じられない。顧客の中心である農家は米価の下落で元気がなく、建設業者は仕事が全くないとボヤいている。
		スーパー	業界では価格競争から脱して、多少価格を上げる方向にあるが、一端下がった価格を再び上げれば更に売行きが悪くなると思われる。
		自動車販売店	車の代替年数が延びている。
		タクシー運転手	年末・年始が終わり売上げが減少すると思われる。
		タクシー運転手	夜の飲食店への出入りが減少している。
		クリーニング店	客からも利益がでない、ボーナスが下がったなどの話を耳にし、良い話はあまり聞かれない。
		住宅販売会社	先行きも来店客数が減少すると思われる。
	企業	製造業（印刷・同関連業）	名刺・封筒・ハガキ等の印刷物が印刷業者の手から離れてきているが、今後、この傾向はさらに進むと思われる。
		製造業（金属製品）	年度末になりエンドユーザーからの引合いが減少すると思われる。
		製造業（電気機械器具）	客からは良い話が聞かれない。
		建設業	公共投資が削減されている中で、道路特定財源の一般財源化の検討がなされており、益々悪化する要因となっている。
		サービス業（コンサルト業）	石油関連商品の高騰がボディーブローのように効いてくる頃であるため、年末年始にはかなり悪化する企業が出てくると思われる。
	悪	企業	製造業（窯業・土石製品）

景気の判断理由

3 その他の意見

(1) 県北地域 【その他】

分野	業種・職種	その他の意見
家 計 関 連	商店街代表者	中心商店街の大型店が撤退して1年半経ち、跡地に大型専門店が出店したが、街に賑わいを取り戻すまでには至っていない。
	スーパー	贅沢品を求める客が増加している一方、安価な商品の動きもよく、二極化しているのかもしれない。
	スーパー	おせち料理の予約が増加するなど、催事に対する支出が戻りつつある。
	スーパー	他業種で出店が増加しているが、強い企業と弱い企業とで二極化している。
	コンビニエンスストア	中小企業のお歳暮の注文が減少している。
	コンビニエンスストア	商業店舗は増加しているようであるが、全体的には下降気味であり、個人店舗も非常に厳しい状況であると感じている。新しいモノ、流行しているモノに需要は集中しており、求人も集まりにくく、決して良い状態とは言えない。
	衣料品販売店	商店街に空き地が目立つようになってきている。土日の売上げの減少が続いており、大型店の影響が大きいと思われる。
	衣料品販売店	大型ショッピングモールの出店の影響で、土日の客数に伸びがない。
	家電販売店	新OS搭載のパソコンが1月30日発売予定となっており、それまでは買い控えが続くと思われる。年末・年始のパソコンの売上構成比は高いため影響があると思われる。
	自動車販売店	新築住宅が増えているとの話が聞かれるが、企業の増収が家計に反映されていないので、個人消費は伸びないと思われる。
	農産物直売所	ペット(犬)連れの観光客が多く見られる。
	小売業(酒類)	大型店の進出により、閉店に追い込まれる個人店舗が目立つ。
	小売業(水産物)	クリスマスや年末年始を控えて、人の動きは多いが財布のヒモは固そうである。
	居酒屋	以前と比べ、地元企業の来店頻度が回復しているように感じられる。一方、近隣の人通りは平日20時を過ぎると閑散としている。
	スナック	新車やマンションを購入する人が増加しているように思われる。また、ボーナスが減少したという話はあまり聞かれず、据え置き若しくは微増したという話をよく聞くようになった。
	観光型ホテル	個人の好みや価値観がはっきりしており、何となく消費するといった人はいないように思われる。
	観光型ホテル	最近では来場者数の予想が難しくなっている。
	タクシー運転手	年末・年始という雰囲気が年々失われていくような気がする。忘年会においても二次会、三次会を行うことも少なくなっている。
	タクシー運転手	ひたちなか市に衣料品店が出店したが、ほとんどは自家用車で買物に行くのでタクシーの利用はない。一方、ひたちなか市営球場で試合がある日は駅からのタクシー利用客がある。
	ドライブイン	空き家を求めて山里に訪れる老夫婦をよく見かけるようになった。
レジャー施設	年々厳しくなるのが現状であり、景気上昇の実感はない。	
美容室	地元で新規出店したさくらシティ日立も、期待した程の効果が見られないように思われる。	
企 業 関 連	林業関係者	高性能機械の導入により、若い労働力を確保している。
	水産業関係者	地元水産加工業においては、金融機関の締め付けが厳しく融資が受けられない状況が続いている。このため設備投資が出来ず魚の流通に支障を来している。
	製造業(食料品)	来春新卒者及び中途採用者の応募が少なく、人員確保が難しい状況であり、中小企業においてはさらに厳しくなっている。
	製造業(電気機械器具)	マスコミでは景気回復と報道されているが、実生活においては実感できないとの声を多く耳にする。
	製造業(電気機械器具)	今月はボーナス時期であり、また、クリスマスや忘年会、さらには年末商戦も加わり活気が感じられる。特に、大型店はもちろんであるが、ホテル・民宿・ゴルフ場・飲食店に賑わいを感じる。
	製造業(電気機械器具)	今年の10月以降、製品価格が上昇しており、景気にプレーキ感が感じられる。
	製造業(電気機械器具)	輸出案件や開発案件が好調のようである。

(1) 県北地域 【その他】

分野	業種・職種	その他の意見
企業 関連	情報通信業（情報サービス業）	ここ数年、新卒採用を控えていたが、来春は採用を増やした。
	金融業	地元企業において、派遣社員がかなり増加してきていると感じられる。また、取引先の人材派遣会社においても派遣する人材が不足しているとのことである。今取上げられているワーキングプアを感じられる地域ではと思われる。
	不動産業	ショッピングセンターが2店舗オープンし、人の流れが良くなっているように感じられる。
雇用 関連	人材派遣業	派遣料金の見直し等、人材確保が求められている。
	求人広告	優待制度や利回りなどで株式が有利だという話題をよく耳にする。
	学校就業関係者	企業から派遣された職業講座受講者が昨年と比べ減少している。
	求人開拓員	新卒者の採用は順調であると公表されているが、工場の現場における人材は不足しており、今後も継続して採用するとのことである。

(2) 県央地域 【その他】

分野	業種・職種	その他の意見
家 計 関 連	商店街代表者	水戸市南部地区は大型ショッピングセンターが相次いでおり、消費者にとっては選択肢が増えて有り難いが、経営者にとっては競争が激化し大変のようである。
	商店街代表者	昨年閉店した大型店跡地の取得者が決まったところであるが、商店街としては早期開店・食品販売の設置・大型駐車場の建設を要望した。跡地がショッピングセンターとして開店すれば商店街へ波及することが期待できる。
	百貨店、総合スーパー	消費に対する意識は今まで以上に厳しくなり、本当に必要なモノをよく吟味して購入するようになると思われる。
	百貨店、総合スーパー	暖冬のためか、防寒商品の動きが鈍く、年明けクリアランスセール待ちとの声が多く聞かれる。
	コンビニエンスストア	セールを行うと消費が良くなるが、終了するとまた元に戻る状況であり、安価な商品が売れる傾向にある。
	コンビニエンスストア	居酒屋では給料日直後を除き暇になっているようである。また、深夜の需要が減少しているためか、24時間営業するファミレスが減少している。コンビニも一部のチェーン店では24時間営業を止める方向に向かっているようである。
	家電販売店	大企業だけが景気回復しており、中小企業や個人商店では全く景気の回復感はない。このままでは、商店街は衰退してしまうと思われる。
	自動車販売店	先行きがまだまだ不安であると言う客が多い。
	レストラン	飲酒運転の取締りが強化されたため、酒類の消費が減少している。
	ファミリーレストラン	周辺の飲食店が潰れた影響で当店の客数がアップしているが、入れ替わりが激しい業界であるため、今後も厳しい状態が続くと思われる。
	観光型ホテル	忘年会での客の入りはやや改善しているように感じられる。
	旅行代理店	年末商戦も昨年と比べやや悪くなっている。
	タクシー運転手	内原地区にショッピングセンターや家電販売店などがオープンしたが、客数は多いものの、実際に買い物をした客はあまり目に付かない。
	タクシー運転手	保険料負担が増加したため、高齢者は消費に回す金額が減少しているようである。
	タクシー運転手	いざなぎ景気を超える景気であると発表されているが、当社においてはやや良くなっているものの、タクシー業界は景気が良いとは言い難い。
	ドライブイン	パート・アルバイトの出入りが激しく、良質な人材の確保が困難である。
	ゴルフ場	12月から平日特別優待券を発行しているが、昨年と比べても予約件数に伸びが見られない。優待券を利用してもプレー代が高額なためか、当クラブでのプレーが敬遠されているように思われる。
	レジャー施設	最近、施設利用者は比較的明るい雰囲気でもリンスポーツを楽しんでおり、景気回復基調の影響が出ていると考えられる。
	レジャー施設	臨時的な夜間イベントの際には入場者が増加した。特別な催しを行うと利用者の動きは活発になると思われるため、クリスマスイベントに期待している。
建築設計事務所	住宅関係は、金利上昇や消費税増税を見込み、新築・リフォームとも一時的に受注が増加している。	
企 業 関 連	製造業(印刷・同関連業)	原油高の影響で紙代の値上げ圧力があるが、来春になると思われる。
	製造業(窯業・土石製品)	景気が上昇しているとの報道があるが、首都圏・大企業の話であり、末端の中小企業においては景気回復の実感がない。
	製造業(一般機械器具)	タクシーに乗車したが、水戸市大工町には客がいないとのことである。また、近隣のショッピングセンターの来客数は多いようである。
	製造業(精密機械器具)	当社のホームページアクセス件数が前年比で大幅に増加している。特に、メール件数は過去最高であった。
	運輸業(道路貨物運送業)	年末に向け、トラック不足が見込まれる。
	情報通信業(情報サービス業)	景気回復は大企業や首都圏に集中しており、中小企業や地方までは波及していないと感じられる。
	金融業	飲酒運転に対する罰則強化や批判の高まりにより、飲食店の売上げが減少している。
	サービス業(広告業)	多少売上げや収益がアップしても、広告宣伝を含め投資が少ない。増収分は社内留保されており一般市民への恩恵は極めて薄い。また、道交法の改正により周囲の人も罰せられることとなったため、会社としての宴会も減少している。

(2) 県央地域 【その他】

分野	業種・職種	その他の意見
雇用 関連	人材派遣業	2007年問題を意識してか、企業の採用は増加してきているように思われる。少人数で業務を行ってきた企業が多いため、ここにきて採用活動が活発化している。
	求人広告	地元ショッピングセンターがオープンして1年が経過するが、テナントの売上げは伸びていないようである。
	公共職業安定所	19年3月卒高校生の求人数は前年比19.5%増加し、求人倍率は1.26倍(昨年1.06倍)となっている。また、年末年始の郵便配達等の期間パート、確定申告のための期間パートで大量の求人を受理している。

(3) 鹿行地域 【その他】

分野	業種・職種	その他の意見
家 計 関 連	商店街代表者	コンビニ・セルフガソリンスタンドなど出店により、地元業者の経営が圧迫されている。また、飲酒運転の取締りにより一部の店舗では酒類販売が減少している。
	スーパー	菓子・果実類といった嗜好品の動きが良くなっており、景気も改善方向に向かっていると思われる。
	コンビニエンスストア	お歳暮などにおいても低価格商品の売行きがよい。
	家電販売店	大型薄型テレビ、ドラム式洗濯機、オール電化など話題の商品は多いので、今後の販売に力を注いでいきたい。
	農産物直売所	以前は日帰りだったものが、最近では宿泊での旅行者が増加してきたように思われる。
	小売業（菓子販売店）	地方の商店街は壊滅的である。また、暖かい日が多かったため農家は豊作貧乏である。
	小売業（金物店）	土地の線引きが行われる予定となっており、不動産関係者による土地の買収の噂を耳にする。
	小売業（書店）	身の回りで景気の良い話は聞かれない。「お金がない」、「欲しい物は我慢」という人が多い。
	衣料品販売店	60歳前後の夫婦は、生活にある程度余裕があるようであり、高額商品を多く購入している。一方、30代前半の若年夫婦はそのようなこともなく、子供服などを万引きするケースも後を絶たない。
	洋食食堂	夜の客数は減少気味であり、アルコールの注文も減っている。一方、昼食時は客単価は低いものの、かなりの賑わいがあり、客数については今後も期待が持てる。
	割烹料理店	客は運転代行にかかる料金を考えながら飲食しているため、自ずと飲む機会が減少しているように思われる。
	日本料理店	大企業の景気は上向きとの報道であるが、我々には波及していない。
	タクシー運転手	石油関連製品の価格変動が大きい。また、身の回り品に外国製の商品が非常に多いのも気になる。
	タクシー運転手	通院でタクシーを利用する客が減少している。
	ドライブイン	旬の生鮮品（農産物）などは、景気に左右されず年間を通して人気がある。
	パチンコ店	投資金額、遊技時間は明らかに減少しており、パチンコ産業の転換期が近づいているのではと思われる。
	クリーニング店	ボーナスが支給され、サラリーマンの景気は良いようである。また、夫婦で公務員をしている家計も良いようである。一方、農家や個人事業主は先行き見通しが立たず、やればやるほど赤字であり、貯金を取崩している状態である。
	住宅販売会社	無理をして良いモノを購入しようとせず、必要なモノを必要な分だけ求める人が多くなったように思われる。また、景気回復を実感していると話す客はほとんどいない。
住宅販売会社	大企業の社員や公務員は住宅・土地の購入に積極的であるように感じられる。一方、自営業者や中小企業の社員は将来への不安が大きいためか購入に消極的であり、二極化が進んでいるように感じられる。	
企 業 関 連	農業関係者	農家の表情は暗い。やめる訳にもいかず、細々とこの安値時期を堪え忍んでいる様子が窺える。
	製造業（食料品）	鹿島港北埠頭の開発が進んでおり、稼働時期になれば地域経済に少しは反映されると思われる。
	製造業（飼料）	穀物原料の高騰により、来年度は原料高・製品安の傾向となり、飼料業界は大きな影響を受けることが予想される。
	製造業（化学工業）	定期修理において、来年は工事関係の人材や材料の確保が厳しくなるようである。
	運輸業（道路貨物運送業）	今年の年末は忘年会などが多く、活気があるようだとの声が多い。
	保険業	建設業の仕事が減少しているのが気になる。
	不動産業	不動産の売買価格は未だ下降気味である。
	サービス業	石油から石炭へ燃料をシフトする動きがある。
雇 用 関 連	民間職業紹介業	当地域においては、人材不足が深刻な問題となっており、他地域から確保することも大変難しい状況となっている。また、正社員と非正社員との処遇改善が一向に進んでいない。
	公共職業安定所	介護・福祉関連（有資格者の求人）やりサイクル関連（鉄・銅・アルミ等）の業種では人手不足との報告がある。また、新規卒卒者の内定状況は好調を維持している。

(3) 鹿行地域 【その他】

分野	業種・職種	その他の意見
雇用 関連	学校就業関係者	求人数が増加しており、景気はある程度良くなっているようであるが、企業サイドでは「まだまだ」と認識しているようである。
	求人開拓員	新卒者の就職活動が一段落したが、雇用条件を上げる余裕のない中小企業においては、求人の充足ができず人材不足になっている。

(4) 県南地域 【その他】

分野	業種・職種	その他の意見
家 計 関 連	スーパー	競合店調査で他店舗を見ているが、客の入りは良い。当地域での景気は戻ってきているように感じられる。
	スーパー	年末になり治安がかなり悪化しているように感じられ、11月から制服警備員を常駐させている。
	コンビニエンスストア	暖冬傾向にあるため、例年と比べ温かい飲料の売行きが悪い。
	衣料品販売店	消費者の年齢層によりファッション性重視と実用性重視に消費が分かれている。
	家電販売店	大型パネル系の伸びは十分感じられるが、単価の低迷が著しい。販売台数で販売額をカバーし切れない状態が続いている。
	自動車販売店	普通車から軽自動車への買替えを検討したいという声をよく聞くようになった。
	農産物直売所	とりあえず必要なモノは廉価物を購入し、良いモノは高価であっても購入するといったように、消費の二極化が進行しているように感じられる。
	専門スーパー	消耗品に関しては低価格志向であるが、耐久品は以前と比べ良いモノを求める傾向にあるように思われる。
	ガソリンスタンド	土浦市内のメイン通りにおいては、平日で約4割の店舗が閉まっており、交通量も少なく、営業時間も短縮している状況である。企業もつくば市への移転が目立ち、今後はつくば市が中心となっていくように感じられる。
	和食食堂	土浦地区には明るい話題がない。
	寿司店	今年は、アルコールの売行きが非常に悪い。近所の飲食店では、品質が低下するため生ビールから瓶ビールに切り替えたほどである。
	都市型ホテル	クリスマス、忘年会、お歳暮など年末商戦へ向けた広告媒体が増加しているように思われ、景気が上向いて行くと感じられる。
	旅行代理店	同業者間での価格競争が激化しており、業績の悪化を感じる。
	旅行代理店	客層に幅が出てきている。
	タクシー運転手	将来に不安を持つ人が多く見られる。
	タクシー運転手	つくばエクスプレス開業による効果が今年も持続していない。
	タクシー運転手	昨年はつくばエクスプレス開業による効果で客が溢れていたが、今年はその利用者に留まっている。
	タクシー運転手	居酒屋は暇であると嘆いている。代行業者も来年は暇になるとのことである。
	ゴルフ場	社用・接待での利用者が増加しており、一部では本格的に業績がアップしているようである。
	美容室	介護保険制度の改革やケアの見直しにより、デイサービスが受けられなくなっている高齢者がいる。
美容室	土浦カレーを街興しにと各事業者が熱心に取り組んでおり、好結果に結び付きつつある。今後、全国に向けPRしていく様子が見受けられ目玉になると思われる。	
建築設計事務所	県外からの業者や県内でも遠方からの業者が目立つ。	
住宅販売会社	購買に対してかなり慎重になってきている。	
企 業 関 連	農業関係者	地元では県議選と市議選が同時に行われるため、人の動きが活発になっており、やや明るい兆しが見られる。
	製造業（食料品）	つくばエクスプレス駅前は建設ラッシュであるが、地元住民にとっては景気に変化はない。
	製造業（食料品）	生産量は増加しているものの、単価の低いモノばかりである。高額な400円以上の弁当が増加してくれば良い状態であるが、今のところは、見受けられない。
	製造業（食料品）	景気は低迷した状態で安定している。
	製造業（飲料）	求人を出して採用しても定着率が悪い。
製造業（印刷・同関連業）	大企業のボーナスは過去最高であると報道されているが、中小企業や個人商店は益々厳しくなるとの話をよく耳にする。	

(4) 県南地域 【その他】

分野	業種・職種	その他の意見
企業 関連	製造業(窯業・土石製品)	大型ショッピングモールの進出により客の流れが変化してきている。
	製造業(非鉄金属)	製造面はインフレ基調である一方、販売価格はデフレ状況であり、この一年で4件の小規模企業が廃業している。中小企業には厳しい状況が続くと思われる。
	建設業	同業他社が営業停止になったことから、11月、12月と予想外の受注が迷い込んできた。
	建設業	当地域では業績好調な企業があるため、飲食店などは良くなっているように感じられる。
	建設業	当初は、つくばエクスプレス沿線のマンションは、売出しと同時に完売するバカ売れ状態であったが、今年の秋頃より収束感が出始め、現在は完成間近となっても売残りが出る状況であるとのことである。つくば市はこの1年間で大いに盛り上がったが、持続性に不安が出てきている。
	建設業(設備工事業)	値引きをする業者、先手を打つ業者があり対応が難しくなっている。
	金融業	マンションが乱立し、毎日販売広告のチラシが郵便受けに投函されている状況であるが、完売したという情報も聞かれず、相当売残りが発生しているようである。一方、新築着工現場も複数あり、販売の先行きが不安視される。
	不動産業	つくばエクスプレス沿線では宅地造成が盛んであり、またローコストメーカーも台頭している。購入適齢者は減少している一方、宅地は供給過剰となっており先行きが懸念される。
雇用 関連	求人広告	自分が好むモノにはかなりお金をかけるが、生活レベルが良くなっているためとは思われない。
	学校就業関係者	正社員の募集が増加し派遣登録者が減少しているためか、それとも派遣自体のニーズが増加しているのかは分からないが、人材派遣業の求人が多い。雇用に関しては景気が良くなっていることが窺える。
	雇用相談員	中堅複写機部品メーカーにおいては、大企業からの受注に一貫性がなく、求人や設備投資の青写真が描けないとのことである。

(5) 県西地域 【その他】

分野	業種・職種	その他の意見
家計 開連	スーパー	スーパーマーケット業界は、いかにサービスに付加価値を付けられるかが重要になってきている。きめ細やかな商品知識を持った店員がいる店舗や品質が良く手頃な価格で提供する店舗などより専門的な店舗が生き残って行くように思われる。
	スーパー	年末に向け、質の高い食料品（和牛・中トロ・大トロ）が動き始めている。
	衣料品販売店	クレジットカードを利用する客が増加している。昨年は月に数件であったが、今年は毎日1件以上は利用がある。
	自動車販売店	客からは景気は益々悪化しているという話を耳にするが、我々もそう感じる。
	ガソリンスタンド	燃料価格が急落している。
	和食食堂	閉店する店舗がかなり目立つ。大型チェーン店の出店により、個人店はかなり苦しいと思われる。
	和食レストラン、割烹	景気は確実に良くなっていると思われるが、外食産業にとっては今までにない危機を感じる。
	都市型ホテル	車で来館する客はアルコールは口にせず、食事中心の宴会になってきている。
	旅行代理店	今まではそれ程多くはなかったが、最近は東南アジア（タイ：バンコク）方面への4～5日の旅行が増えている。
	タクシー運転手	飲酒運転の取締りが強化されたが、タクシー利用客に変化はない。
	タクシー運転手	飲酒運転の罰則強化により宴会は必要最小限に抑えられているように感じられる。
	ドライブイン	野菜類が安く、生産農家の収入は減少している。本県は野菜の生産量が多いので景気への影響が懸念される。
	パチンコ店	土日祝日の動きを見ると、レジャー産業は飲食店を含めた各サービス業への分散化が見られる。
	レジャー施設	飲酒運転が社会問題化したことで、消費者の飲食スタイルが変化してきている。
理・美容店	残業がなくなったという客が多い。また、普通車から軽自動車へ替える人も多い。理容業については、特殊技術を使用するパーマ・カラー等が減少している。	
企業 開連	製造業（食料品）	お歳暮贈答用製品のパンフレットがたくさん事業所に届くようになった。需要が高まっているため、各社PRに力を入れていることが窺える。
	製造業（食料品）	マスコミでは景気回復と報じられているが、地方においてはシャッターの閉じている店舗が目立つ。
	製造業（印刷・同関連業）	飲酒運転の取り締まりが強化されたためか、居酒屋など飲食関連は益々厳しいようである。一方、代行業は多忙であり、時間帯によっては1時間待ちは当たり前前で、繁盛しているようである。
	製造業（窯業・土石製品）	石材業においては他業種からの参入によって安売り業者が増加しており、仕事の先取りなど悪影響が見られる。今後、業界が先細りすることは明らかであり、販売品などの見直しを迫られている状況である。
	製造業（金属製品）	素材費の値上がりにより、コストレベルが不安定になっている。
	建設業	勝ち組・負け組の企業ははっきりと分かれてきたように感じられる。また、シャッター通りには依然として回復が見られない。
	金融業	新規スーパーの出店の影響により、地元のスーパーが大型スーパーに吸収された。
	不動産業	売買客が若年化している。
サービス業（広告業）	新商品を開発するなど新しいことに挑戦して行かなければ、すぐに行き詰まってしまうと思われる。	
雇用 開連	求人広告	求人募集が減少している。また、宅配業においては、荷物が少ないと聞く。
	公共職業安定所	請負額及び賃金のアップがないような景気拡大は、個人にとっては景気が良いとは言えない。
	学校就業関係者	高齢化に伴い、溶接関連の技能者が不足しており、若い人材を求めてくる企業が数社あった。